福岡市埋蔵文化財調査報告書第９９０集

博多120

—博多遺跡群第１６０次調査報告—

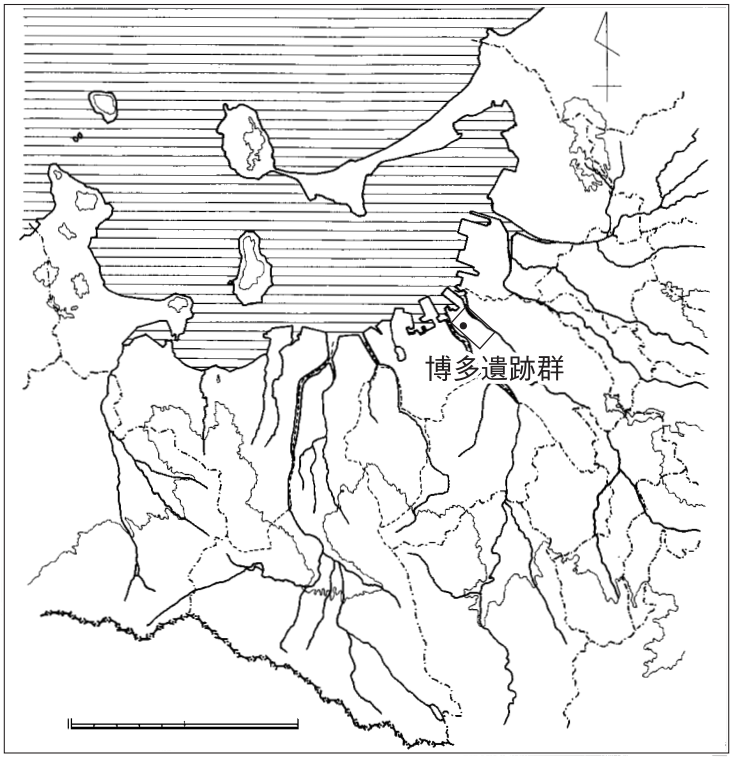
２００８

福 岡 市 教 育 委 員 会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第９９０集

博多120

—博多遺跡群第１６０次調査報告—



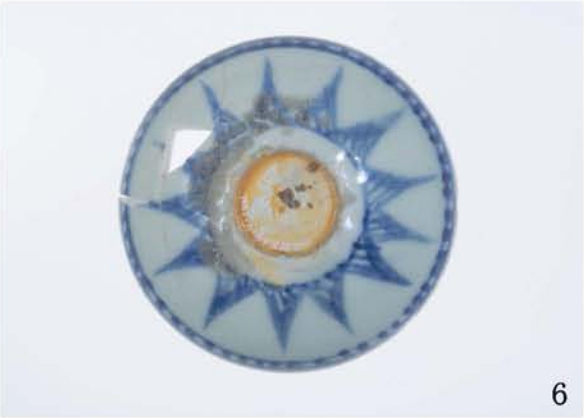
遺跡略号　HKT－160
調査番号　0601

２００８

福 岡 市 教 育 委 員 会

１．博多遺跡群第160次調査北半第２面 全景（南から）

２．博多遺跡群第160次調査北半第４面 全景（南から）



1．天目碗(90) 2．天目碗高台墨書(90) 3．四耳壺(46) 4．人形(242) 5．染付皿見込(207)
6．染付皿外側(207) 7．SC-4 軒平・軒丸瓦(159・217) 8．石・土製品(左上から237・236・239・230 左下から243・238・244・235・234・239)

序

福岡市には多くの文化財が分布しており、本市では文化財の保護、活用に努めております。しかし本市では各種の開発事業も多く、やむを得ず失われる文化財については記録保存のための発掘調査を行っています。

本書は共同住宅建設に先立って調査された博多遺跡群第160次調査の報告であります。発掘調査の結果、中世から近世を中心とした遺構・遺物が見つかりました。博多遺跡群は弥生時代以来2000年以上も連綿と続いた遺跡であり、また、中世には日本屈指の「都市」だったことで著名でありますが、まだまだ性格不明の部分が多くあります。本調査は博多遺跡群の北側砂丘「息浜」の西側入り江部分にあたります。綱場町のこの街区は周辺に比べて遺跡調査例が少なく、その成果は博多遺跡群の研究において重要な意義をもっております。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野での一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた、株式会社リファレンスをはじめとする関係各位に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成20年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　山田　裕嗣

例　　言

1. 本書は共同住宅建設に先立って、福岡市教育委員会が、2006 年 4 月 3 日～ 7 月 4 日にかけて行った博多遺跡群第 160 次調査の発掘調査報告書である。
2. 検出した遺構については、調査時に遺構を示す記号 S を付して検出順に S-1,S-2, のように通し番号をつけた。本文ではこの番号に遺構の性格を示すアルファベットを S のあとに付し SK-1 のように記述する。
3. 本書で使用する方位は真北である。
4. 本書で使用した遺構・遺物実測図は福岡市教育委員会埋蔵文化財第一課 赤坂亨・山崎賀代子が作成し、製図は赤坂・上方高弘・石水久美子が行った。
5. 本書で使用した写真は、赤坂・上方高弘が撮影した。
6. 本書の執筆・編集は赤坂が行った。また陶磁器の整理には上方の協力を頂いた。
7. 陶磁器・瓦器の分類および時期比定には以下の文献を参照した。
   山本信夫 2000『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』(太宰府市教育委員会)
   横田賢次郎・森田勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』 4
   中島恒次郎 1995「Ⅱ各地の土器様相 12. 九州北部」『概説中世の土器・陶磁器』真陽社
8. 報告書抄録は裏表紙に記載した。
9. 本報告の記録類、出土遺物は収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので活用されたい。
10. 出土銭および鉄・銅製品の保存処理、X 線による銭貨名解読は福岡市埋蔵文化財センターに依頼した。
11. 本書第 1 図は田上勇一郎 2006「発掘調査からみた中世都市博多」『市史研究　ふくおか』創刊号の第 1 図をトレース・改変して作成した。

遺跡調査番号	0601		遺跡略号	HKT-160	
地　　番	福岡市博多区綱場町 144・145 番		分布地図番号		千代博多 48
開 発 面 積	296.52㎡	調査対象面積	162.00㎡	調査面積	134.1㎡

本文目次

Ⅰ．はじめに
　１．　調査にいたる経過 …… 1
　２．　調査の組織 …… 1
Ⅱ．遺跡の立地と環境 …… 4
Ⅲ．調査の記録
　１．概要 …… 4
　２．層序 …… 6
　３．遺構・遺物
　　1.第１面 …… 10
　　2.第２面 …… 11
　　3.第３面 …… 15
　　4.第４面 …… 15
　　5.その他出土遺物 …… 16
Ⅳ．小結 …… 19

挿図目次

第１図　博多遺跡群調査地点位置図（1/7,500） …… 2
第２図　博多遺跡群第 160 次調査位置図（1/1,000） …… 3
第３図　調査区北半西壁土層図（1/40） …… 5
第４図　博多遺跡群第 160 次調査　第１面全体図（1/80） …… 7
第５図　SK-1・SK-9・SK-12・SK-13・SX-3・SX-4・SX-5（1/40） …… 8
第６図　SK-18・SK-19・SK-20・SK-35・SK-36・SX-2・SX-32・SX-33・P-6・P-98（1/40） … 9
第７図　博多遺跡群第 160 次調査　第２面全体図（1/80） …… 12
第８図　博多遺跡群第 160 次調査　第３面全体図（1/80） …… 13
第９図　SX-10・SX-14・SX-16・SD-17・SK-34（1/40） …… 14
第10図　博多遺跡群第 160 次調査　第４面全体図（1/80） …… 17
第11図　SE-25・SK-24・SK-26（1/40） …… 18
第12図　SK-23・SK-27・SK-29・SK-30（1/40） …… 19
第13図　SK-1・4　SX-2・5・6 出土遺物（1/3・1/4） …… 20
第14図　SK-12・13・15・18　SX-8・10・11・14 出土遺物（1/3・1/4） …… 21
第15図　SE-25・26　SK-20・24・27・29・30・35　SX-22・31・32 出土遺物（1/3） …… 22
第16図　遺構外出土遺物その１（1/3） …… 24
第17図　遺構外出土遺物その２（1/3） …… 25
第18図　遺構外出土遺物その３（1/3） …… 26
第19図　遺構外出土遺物その４（1/3） …… 27
第20図　遺構外出土遺物その５（1/3） …… 28
第21図　石製品・骨製品・土製品・製鉄関連遺物（1/3） …… 29

表　目　次

第１表　遺構出土遺物観察表 …… 23
第２表　出土銭貨観察表 …… 28
第３表　遺構外出土遺物観察表その１ …… 30
第４表　遺構外出土遺物観察表その２ …… 31
第５表　遺構外出土遺物観察表その３ …… 32

巻頭図版目次

巻頭図版１　1. 博多遺跡群第 160 次調査北半第２面 全景（南から）
2. 博多遺跡群第 160 次調査北半第４面 全景（南から）
巻頭図版２　1. 天目碗（90） 2. 天目碗高台墨書（90） 3. 四耳壺（46） 4. 人形（242）
5. 染付皿見込（207） 6. 染付皿外側（207） 7. SC-4 軒平・軒丸瓦（159・217）
8. 石・土製品（左上から 237・236・239・230　左下から 243・238・244・235・234・239）

図版目次

PL 1　1. 博多遺跡群第 160 次調査北半第３面 全景（南から）
2. 博多遺跡群第 160 次調査北半砂丘面 全景（南から）
PL 2　1. 博多遺跡群第 160 次調査南半第２面 全景（東から）
2. 博多遺跡群第 160 次調査南半最下層 全景（南から）
PL 3　1. SX-3・4・5・6（北から） 2. SX-3（北から） 3. SX-5（西から）
PL 4　1. SX-3・7（東から） 2. SX-6（西から）
PL 5　1. SX-2（北から） 2. SK-12（北から） 3. SK-13（北から）
PL 6　1. SX-14 （北から） 2. SX-14（西から） 3. SX-14 下溝（西から）
PL 7　1. SX-10（西から） 2. SX-16（北から） 3. SK-19 ベルト（南から）
PL 8　1. SK-20（北から） 2. SK-23（東から） 3. SK-24（西から）
PL 9　1. SE-25・26（西から） 2. SK-27（西から） 3. SK-30（南東から）
PL10　1. SX-32・33（北東から） 2. SX-34（南西から） 3. 南半最下層石列（西から）

Ⅰ．はじめに

１．調査にいたる経過

平成 17 年 9 月 30 日付けで株式会社リファレンスより福岡市教育委員会埋蔵文化財第一課宛に福岡市博多区綱場町 144・145 番の物件に関して、共同住宅建設に関わる埋蔵文化財事前審査申請書が提出された（事前審査番号 17-2-628）。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である博多遺跡群（分布地図番号 48　千代博多　0121　遺跡略号ＨＫＴ）に含まれている地点であり、この申請を受けて埋蔵文化財課では申請者と協議の上、平成 17 年 10 月 20 日に申請地内の試掘調査を行い、現地表面下 150㎝前後で整地層と、井戸と思われる遺構を確認した。この結果を受けて埋蔵文化財課では申請者に対して遺構が存在する旨の回答を行い、その取り扱いについて協議を行った。その結果、建物の構造上遺構の破壊が避けられないため、平成 18 年度に発掘調査、平成 19 年度に資料整理・報告書作成を行い、記録保存を図ることで協議が成立した。なお調査対象としたのは開発面積 296.52㎡のうち、共同建築建物部分の 162.00㎡である。

調査期間は平成 18 年 4 月 3 日から 7 月 4 日までである（調査番号 0601）。調査面積は 134.1㎡、遺物はコンテナ 95 箱分出土している。また、整理作業と報告書の刊行は 2007 年度に行った。

現地での発掘調査にあたっては株式会社リファレンスをはじめとする関係の皆様から発掘調査について御理解いただくと共に、多大なご協力を賜りました。ここに記して深い感謝の意を表します。

２．調査の組織

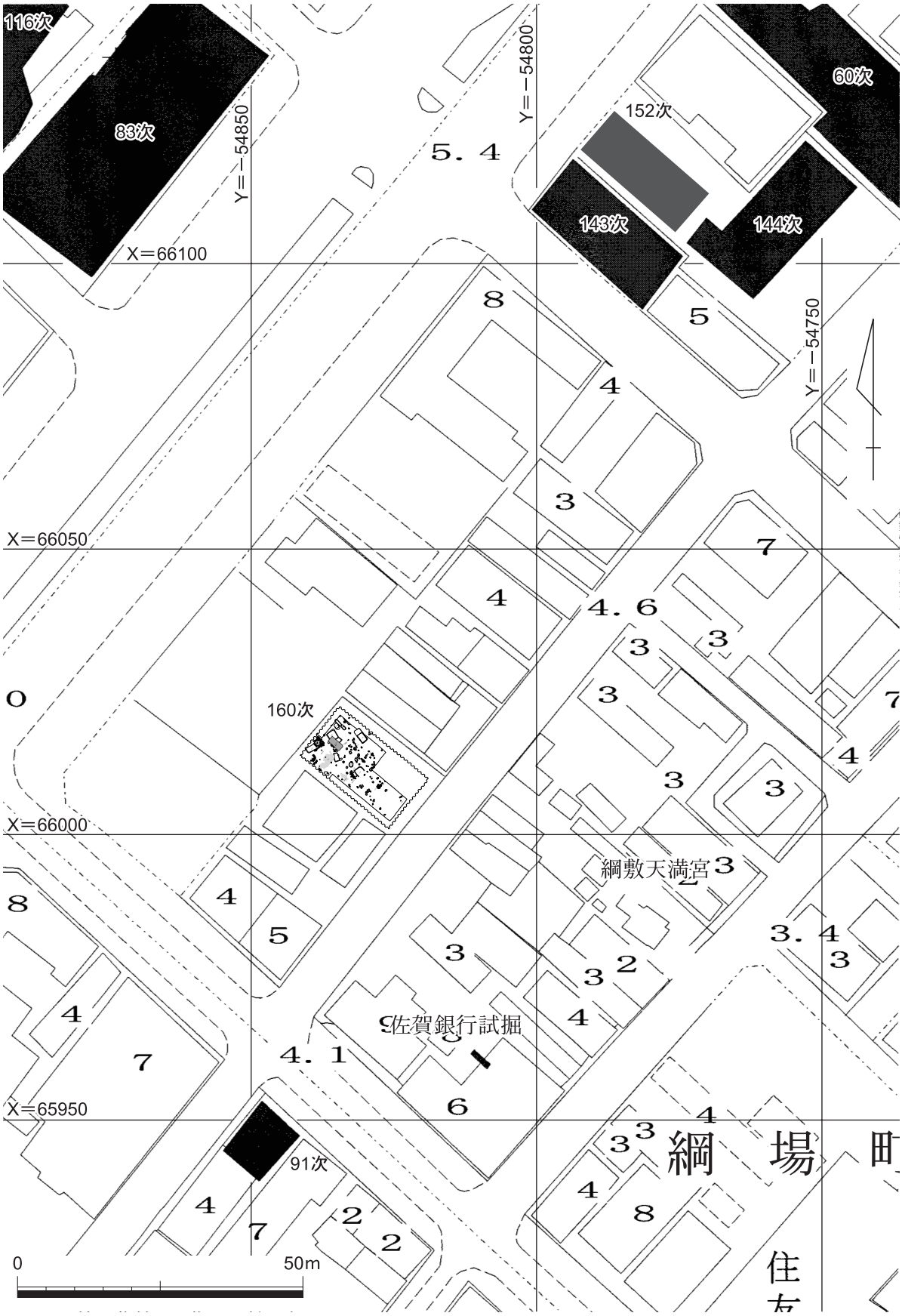
調査は以下に示す組織で実施した。

事業主体　　株式会社リファレンス
調査主体　　福岡市教育委員会埋蔵文化財第一課

平成 18 年度
調査総括　　山口譲治（埋蔵文化財第一課長）
　　山崎龍雄（埋蔵文化財第一課調査係長）
調査庶務　　文化財管理課　鈴木由喜
調査担当　　埋蔵文化財第一課調査係　赤坂亨
調査作業　　水田ミヨ子　酒井康恵　草場恵子　村山巳代子　西村寿美枝　安東昌信　許斐拓生
　　永田とみ子　上野照明　藤村正勝　定直康浩　福嶋大　高橋昇　在郷正治

平成 19 年度
総　　括　　山口譲治（埋蔵文化財第一課長）
　　米倉秀紀（埋蔵文化財第一課調査係長）
庶　　務　　文化財管理課　鈴木由喜
整理担当　　福岡市博物館学芸課　赤坂亨
整理作業　　石水久美子　小田敬子

第１図　博多遺跡群調査地点位置図（1/7,500）



第２図　博多遺跡群第 160 次調査位置図（1/1,000）

Ⅱ．遺跡の立地と環境

博多遺跡群は現在の博多川と石堂川の間の河口部に位置する、弥生時代から現代まで継続する都市遺跡である。博多遺跡群は三列の砂丘によって形成され、博多遺跡群第160次調査地点はその最も海寄りの「息浜」と呼ばれる砂丘の南側に位置し、博多浜と息浜の間の入り江に向かって南へ緩やかに傾斜している地点である。（第１図）この街区での調査事例はないが、南方約50mの佐賀銀行試掘調査では16世紀の陶磁器一括埋納が確認されている。また南方70mの第91次調査では15世紀以降の遺物・遺構が確認されている。また綱場町の由来となった綱敷天満宮が調査地点の南西約50mの地点に所在している。（第２図）綱場町内では北西約100mの地点で第60・143・144・152次調査が行われている。60次では平安時代以降、143次では室町時代以降、144次では平安時代末以降の遺構が確認されている。

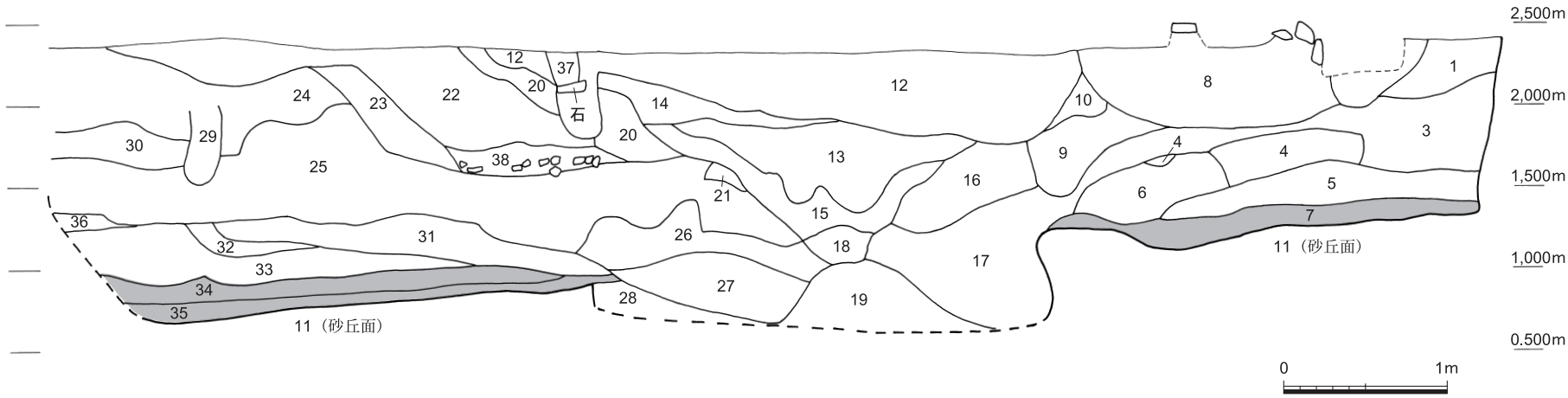
Ⅲ．調査の記録

１．概要

平成18年４月３日に機材搬入を行った。調査面積が狭いため、調査区を北半と南半に分け、土砂を反転して調査を行った。まず北半より調査に着手。周囲の建物への影響を考え、鋼矢板から約１ｍの幅で土手を残し、その中を調査した。遺構面は、まず石組遺構SX-3を検出した標高約2.5mの面を第１面とし、石敷遺構SX-14を検出した標高約2.2mの面を第２面、SX-14を完全に外しきった標高約2.0mを第３面、包含層の黒色系砂質土を完全に除いた後の面を第４面とし、順次手作業で掘り下げながら調査を行った。第４面で褐色砂層となり、ここが基盤となる砂丘面かと思われたが、褐色砂の下に黒褐色の炭混じりの層が南に傾斜するように全面に広がり、その下が基盤の砂層となることが確認できた。6月７日に北半の調査が終了。重機による南半の表土すき取りを行い。南半の調査に着手した。南半は行程と休憩場所の確保の都合上、約半分の面積の調査となった。南半は礎石の出る高さを第一面（北半第１面）とし、以下標高約1.6mを第２面（北半整合無し）、標高約1.2mを第３面（北半第４面）と設定した。同じ調査内だったが遺構の検出状況が異なり、北半で検出した遺構の続きを南半で検出できない場合があった。南半調査時は梅雨の時期に重なり、また湧水も多かったために、作業の進捗が遅れたが、７月３日に南半の調査を終え、７月４日に機材を撤収し調査を終了した。

北半第１面では石組遺構・土坑と多くの礎石を検出した。第２面では「く」の字に曲がる石敷遺構を検出した。第３面では井戸・土坑・ピットを、第４面では土坑・ピットを検出した。第２～４面からは土師器・白磁・青磁が出土している。第４面下の黒褐色砂質土中からは瓦器椀片が多く出土した。南半では第２面で土坑とピット、第３面（北半第４面）でピットと石列を確認した。この石列以南は主に上の面から掘り込まれたピットがまばらに確認されるのみであり、この石列が遺構の南限となる可能性がある。遺物はパンケース95箱分出土した。

座標は国土座標を用いた。座標は光波測定器を用い、基準点T34を始点・基15後視点とする結合トラバースにより調査区内へ座標移動を行った。なお基準点T34・基15の国土座標は平成４年３月に西技測量設計株式会社の行った博多地区遺跡基準点測量委託の測量成果に基づいている。



番号	色調・土質	しまり	粘　性	備　考
1	黒褐色土	あり	なし	
2	黒灰褐色土	あり	ややあり	粘土多く含む
3	黒褐色土	ややあり	ややあり	砂少量含む
4	褐色砂	なし	なし	上部が遺構検出面・炭少量混じる
5	黒色砂	なし	ややあり	炭多く含む
6	暗褐～黒褐色砂質土	なし	ややあり	
7	暗褐色砂	なし	なし	炭含む
8	黒灰褐色土	あり	あり	炭焼土含む
9	暗褐色砂質土	ややあり	ややあり	径２～３cmの小石含む
10	暗赤褐色砂質土	あり	なし	
11	明褐色砂	なし	なし	
12	黒褐色砂質土	ややあり	なし	径２～３cmの小石含む
13	黒褐色砂質土	ややあり	なし	径２～３cmの小石含む・12層よりもやや明るい
14	暗褐色砂	なし	なし	径１cmの炭・焼土含む
15	暗黄灰褐色砂	なし	なし	
16	黒褐～暗褐色砂	なし	ややあり	
17	黒褐色砂質土	ややあり	ややあり	
18	暗赤褐色砂	なし	ややあり	
19	暗褐色砂	なし	ややあり	

番号	色調・土質	しまり	粘　性	備　考
20	褐色砂	なし	なし	まだらに黒褐色砂が入る
21	褐色砂	なし	なし	
22	黒褐色砂質土	あり	ややあり	
23	黒灰褐色砂質土	あり	ややあり	径１cm以下の小石多く含む
24	黒褐色砂質土	あり	ややあり	径２～３cmの小石多く含む
25	黒褐色砂質土	あり	ややあり	
26	暗赤褐色砂	なし	なし	18層と似るが砂の流れが異なる
27	黒灰色砂質土	ややあり	ややあり	
28	黄灰褐色砂	なし	ややあり	
29	黒灰砂質土	あり	ややあり	柱穴
30	黒褐色砂質土	あり	なし	
31	暗黄褐色砂	なし	ややあり	
32	黒色砂質土	ややあり	ややあり	
33	褐色砂	なし	なし	
34	暗褐色砂	なし	ややあり	砂と水性堆積土の互層・７層に対応
35	暗褐～黒褐色砂	なし	ややあり	７層に対応
36	灰色砂	ややあり	なし	
37	黄褐色砂質土	あり	あり	柱の抜き跡か
38	黒褐色砂質土	あり	ややあり	径10cm前後の石多く含む

第３図　　調査区北半西壁土層図（1/40）

２．層序

層序は調査区北半の西壁で確認した。重機による表土すき取りは地表下 150㎝（標高約 2.500m）まで行い、それ以下は人力によって掘削を行った。本調査区の層序は①基盤砂丘層②暗褐色砂③黒色系砂質土④表土を含む撹乱層の４つに大きく分層できる。堆積の順は①→②→③→④である。

①基盤砂丘層

基盤の砂丘層は西壁の北側で標高 1.300m、南側で標高 0.650m 確認された。北半全体の調査状況では、砂丘はほぼ現在の街区の方向に沿って、北西から南東方向に緩やかに傾斜していることが明らかになった。調査区内での砂丘の最高点は 1.700m であった（第 10 図）。この傾斜は、本調査地点が博多遺跡群の息浜と呼ばれる砂丘列の南西部にあたり、博多浜と息浜の間の入り江に向かって砂丘が緩やかに傾斜している場所のためである。この砂丘層は南半では水性堆積の暗い砂のまざった互層になる。湧水のため、調査区南半西壁では砂丘層を確認できなかった。

②暗褐色砂層

基盤砂丘層の傾斜の上に堆積している。7・34・35 層が該当する（第３図網掛け）。調査の中心である③の掘削が終了した段階では、③と②との色調土質が明確に異なっていたため、この層を地山の砂丘面と捉えていた。しかし、②中から遺物、特に③出土遺物よりも古い瓦器などが出土したため、全体を下げたところ①が検出された。②を下げて基盤砂丘面を出し、遺構検出を行ったが遺構は検出されなかった（PL1-2）。従ってこの層は遺構面ではなく、砂丘の上方から流れてきた遺物包含層と考える。本調査地点の南東側では、本調査地点では確認できなかった 12 世紀以前の遺構が存在する可能性がある。

③黒褐色系砂質土

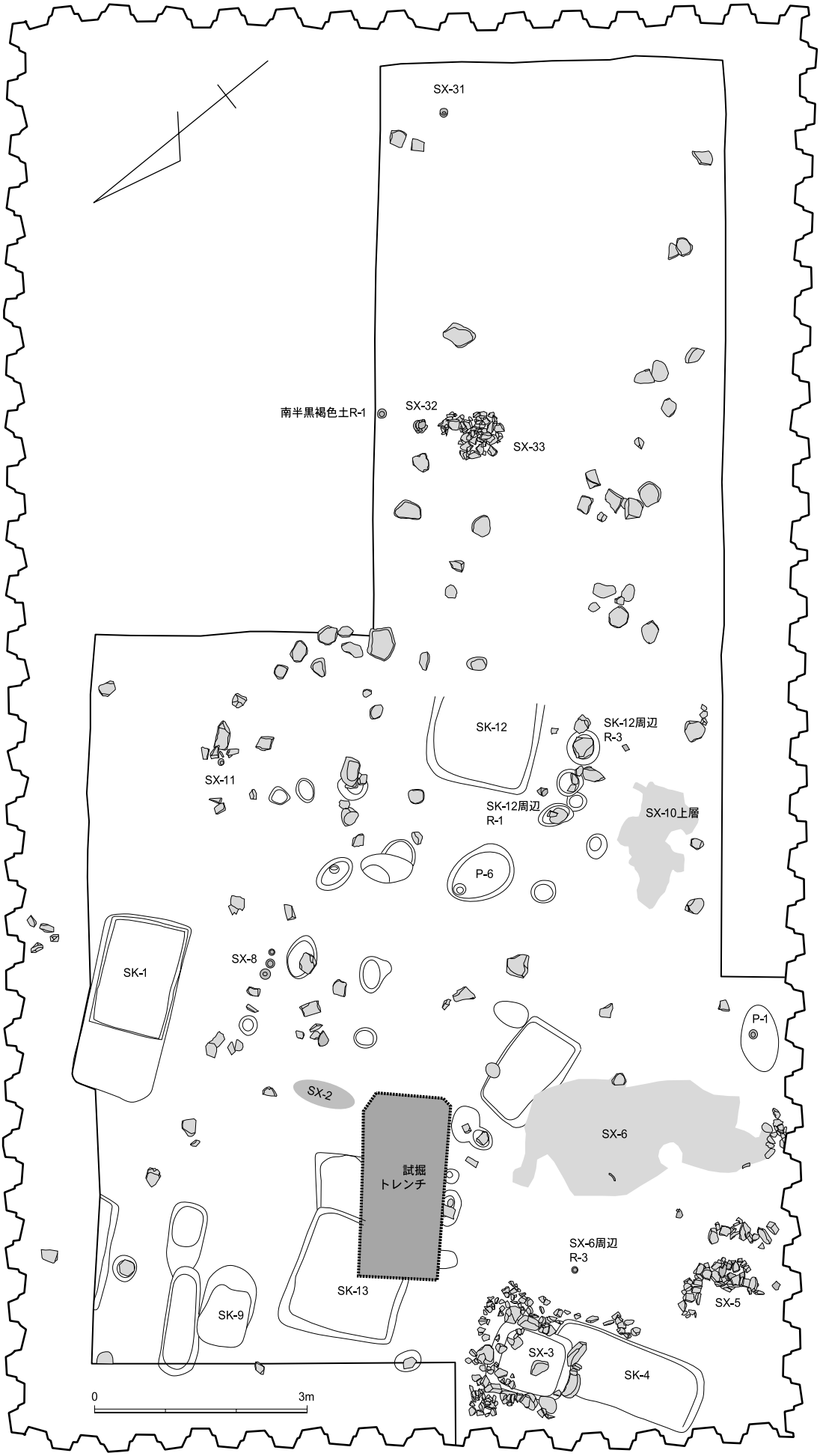
本調査地点の中心となった土層である。基盤砂丘の傾きに沿って堆積した層と、ほぼ水平に堆積した層とに二分できる。前者が 4・5・16・31・32・33 層であり、褐色砂など砂丘の砂の再堆積した層を含む。後者は１～３・6・8 ～ 15・17 ～ 30・36 ～ 38 層であり、黒色系砂質土のみで形成される。両者の境界線付近の標高約 1.700m 付近が遺構調査第４面である。石敷遺構を確認した標高約 2.500m を第１面とした。１面と４面との間、標高約 2.200m を第２面、標高約 2.000m を第３面としたが、第３図にみるようにこの③は多くの遺構が切り合っている上に、地山も遺構覆土も黒色であるため、遺構の面の認定が難しく、第２・第３面の設定は恣意的である。また一部④から掘りこまれた遺構もあり、④と③との境も層位的に明確ではない。時期は 13 世紀～ 14 世紀であり、一部近世の遺構も含む。

④撹乱層（表土を含む）

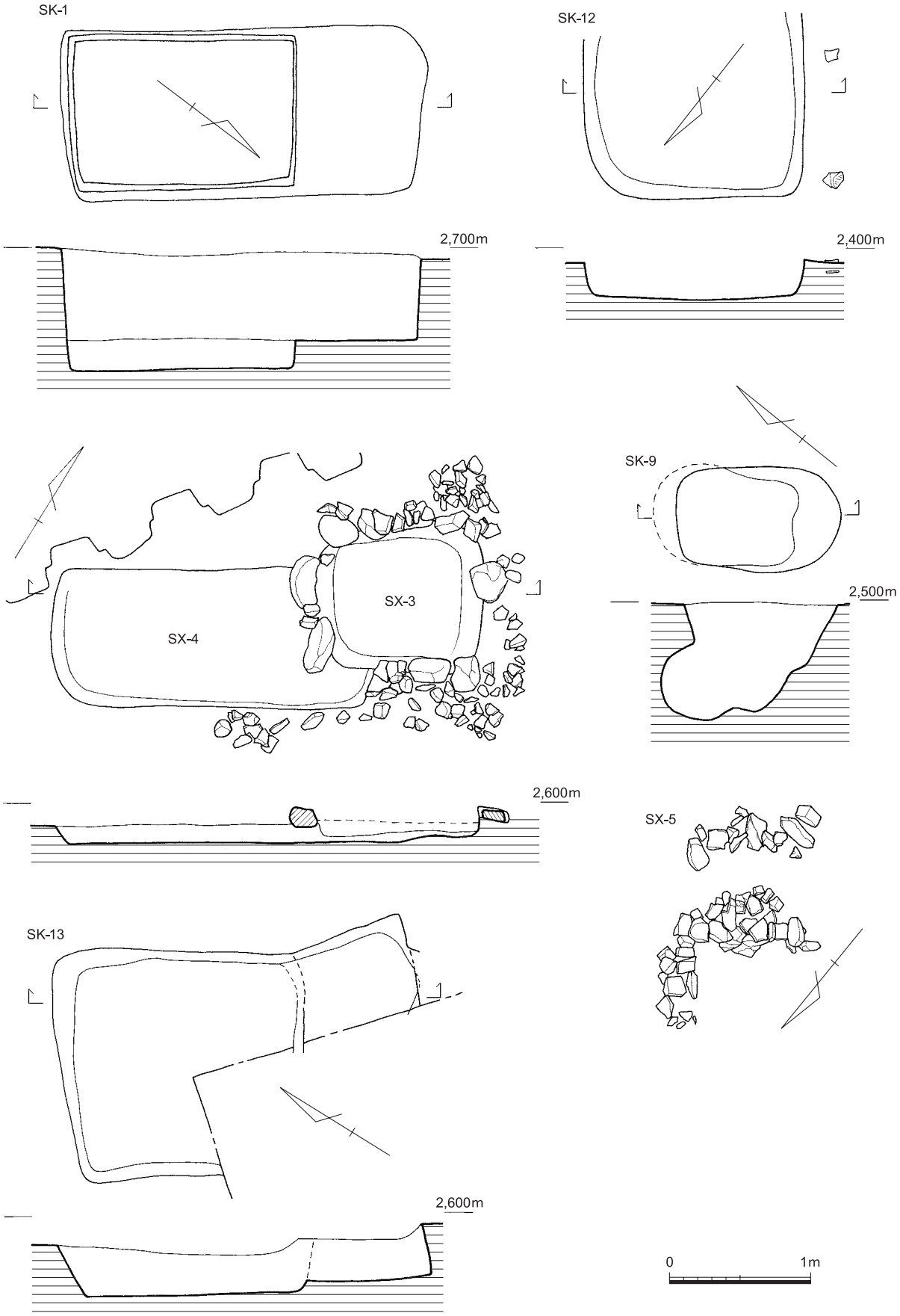
地表面から 150㎝下までの標高約 4.000m ～ 2.500m の層である。試掘時および表土すきとり時には遺構面を確認できなかったが、土層から判断すると、第１面や第２面の遺構は 2.500m より上から掘り込まれているものもあり、視認できなかったが、この層の下の方には遺構面があったと考えられる。時期は近世から現代である。

３．遺構と遺物

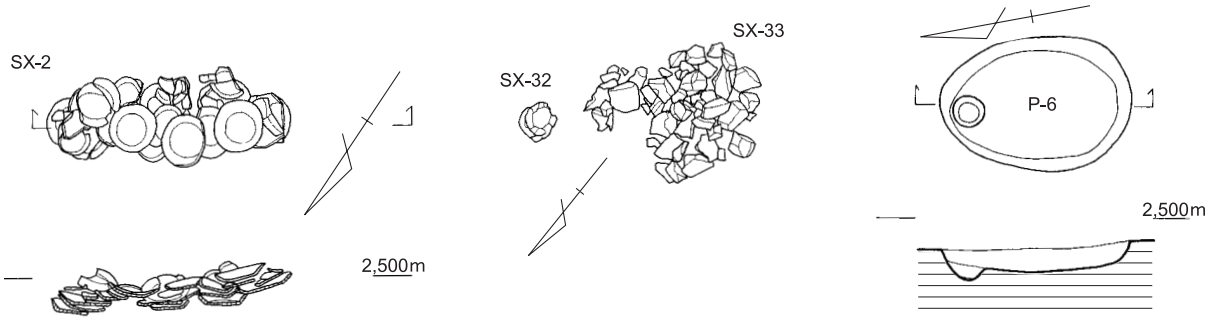
第１面から第４面までの遺構面毎に遺構および出土遺物の記述を行う。各面での記述順は遺構種別順（アルファベット順）に行う。なお調査時点では調査区北半を４面、南半を３面として調査をおこなったが、本書では北半の面を基準として報告する。南半第１面は北半第１面に、南半第３面は北半第４面に対応する。南半第２面は遺構がなく、北半とも対応しないため除外した。

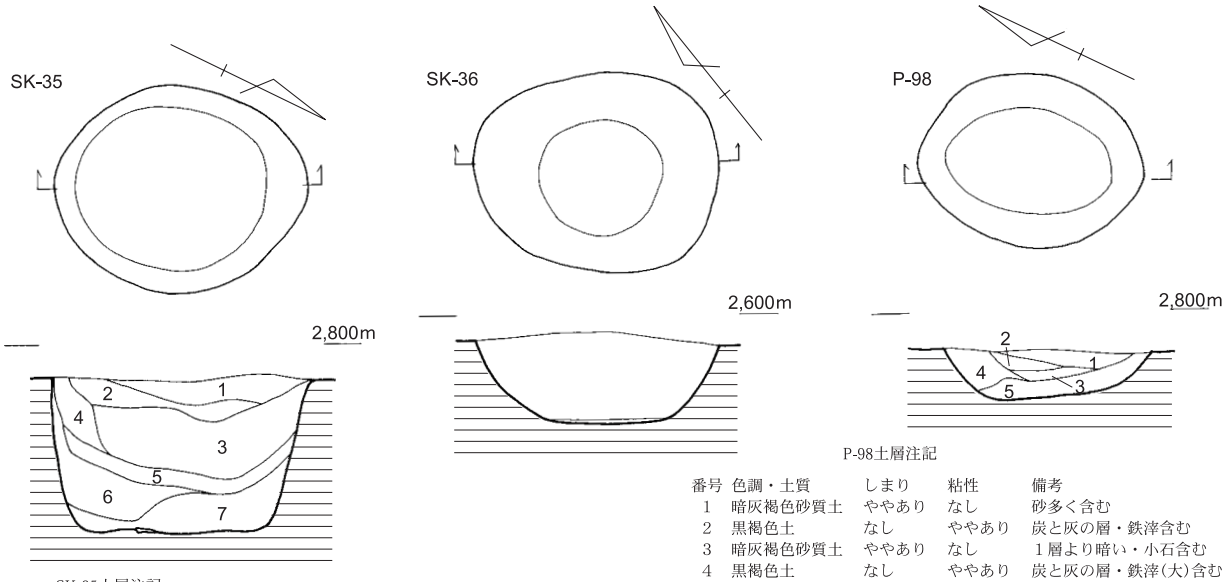


第４図　　博多遺跡群第 160 次調査　第１面全体図（1/80）



第５図　SK-1・SK-9・SK-12・SK-13・SX-3・SX-4・SX-5（1/40）



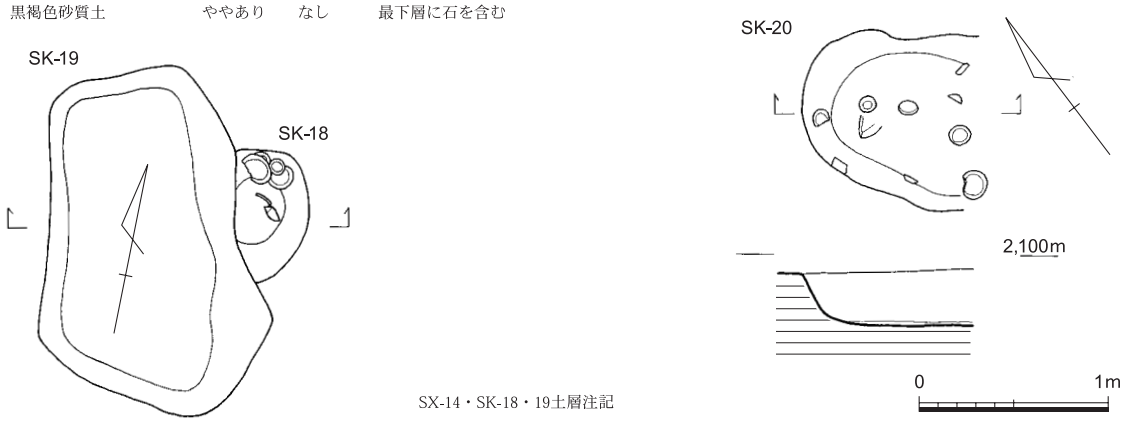


SK-35土層注記

番号	色調・土質	しまり	粘性	備考
1	黒褐色砂質土	ややあり	なし	最下層に炭の筋状の層あり
2	茶褐色砂質土～砂	ややあり	なし	炭を少量含む
3	暗茶褐色砂質土	ややあり	なし	
4	暗灰褐色砂	なし	なし	
5	黒褐色砂質土～粘質土	ややあり	あり	
6	暗茶褐色砂質土～砂	なし	なし	
7	黒褐色砂質土	ややあり	なし	最下層に石を含む

P-98土層注記

番号	色調・土質	しまり	粘性	備考
1	暗灰褐色砂質土	ややあり	なし	砂多く含む
2	黒褐色土	なし	ややあり	炭と灰の層・鉄滓含む
3	暗灰褐色砂質土	ややあり	なし	１層より暗い・小石含む
4	黒褐色土	なし	ややあり	炭と灰の層・鉄滓(大)含む
5	暗灰色粘土	なし	あり	灰の層



SX-14・SK-18・19土層注記

番号	色調・土質	備考
1	暗灰褐～黒褐色土	炭・焼土少量含む・SX-14
2	黄灰褐色砂と暗灰褐色土の互層	SX-18
3	黄灰褐色粘土	SX-18
4	焼土と炭	かたまり多量に混入・遺物多し・SX-19
5	暗褐色土	炭・焼土多く混ざる・SX-19

第６図　SK-18・SK-19・SK-20・SK-35・SK-36・SX-2・SX-32・SX-33・P-6・P-98（1/40）

1. 第1面

土坑 SK-1（第５図）

調査区北半北壁付近で検出した。2.5m × 1.2m の平面長方形を呈する。この長方形のなかに深さが60cm の部分と 80cm の部分がある。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面もほぼ垂直である。壁面付近は若干覆土とは色調が異なり、土を素堀したものではなく木枠がはめられていたと考えられる。遺構の性格を伺わせる遺物は発掘されなかった。貯蔵穴であろうか。遺物は土師器皿（１～４）が出土した。時期は 14 世紀以降である。

土坑 SK-9（第５図）

調査区北半北隅で検出した。0.8m × 1.2m の平面隅丸長方形を呈し、深さ 0.8m を測る。遺構覆土は炭を少量含む暗灰褐色粘質土である。発掘の結果内部で大きくオーバーハングする形状になったが、２つの遺構が切り合っていた可能性が高い。図化可能な遺物は出土しなかった。時期は不明。

土坑 SK-12（第５図）

調査区北半南側で検出した。1.6m × 1.2m 以上の平面長方形を呈し、深さ 0.3m を測る。底面はほぼ水平である。遺構覆土は地山より若干明るい暗灰褐色砂質土である。南半調査時に残りの部分の検出を行ったが、発見できなかった。遺物は無釉陶器・甕（44）が出土した。時期は不明。

土坑 SK-13（第５図）

調査区北半北側で検出した。南西隅を試掘トレンチによって切られている。1.8m × 1.5m 以上の平面長方形を呈し、深さ 0.4m を測る。底面はほぼ水平である。遺構覆土は地山に褐色砂を含んだもの。当初は南東側も同じ覆土であったため同一遺構として掘削を行ったが、底面が浅かったため別遺構であると判断した。両者の前後関係は不明。遺物は土師器･皿（45）が出土した。時期は 14 世紀以降か。

性格不明遺構 SX-2（第６図）

調査区北半中央付近で検出した。土師器が 1.3m × 0.5m の範囲で集中出土している。20 枚以上の土師器が出土した。周辺の土に違いはみられず､どのような状況で廃棄もしくは埋納されたものかは不明。実測可能な土師器坏・皿は 20 点であった（６～ 25)。時期は 13 世紀である。

石組遺構 SX-3（第５図）

調査区北半北西側で検出した。1.1m × 1.1m 以上の平面正方形を呈し、深さ 0.2m を測る。底面はほぼ水平である。遺構覆土は地山に比べて粘土を含んでいるが差はあまりない。径 30cm 前後の大きめの石が本遺構のものであり、最下段の石組のみが残ったものと考えられる。第 2 面の石敷遺構 SX-14 の上に造られており、また SX-4 を切っている。図化可能な遺物は出土しなかった。時期は不明。

性格不明遺構 SX-4（第５図）

調査区北半北西側で検出した。2.3m × 1.0m の平面長方形を呈し、深さ 0.2m を測る。底面はほぼ水平である。一部は調査区範囲外に延びている。遺構覆土は SX-3 同様、地山に比べて粘土を含んでいるが違いはあまりない。南東側長辺に沿って石が並ぶが、第 2 面の石敷遺構 SX-14 が壊された際に出た土を掘り込んで造った、素堀の土坑の可能性もある。遺物は土師器・皿（26）が出土した。時期は 14 世紀以降か。

石組遺構 SX-5（第５図）

調査区北半西側で検出した。石組遺構の角部分と考えられる。内法で 0.8m と 0.6m の長さが残存している。SX-3 に比べて径 10 ～ 20cm の小さめの石で造られている。残りの約半分は別の遺構に寄って壊されたと考えられるが、その痕跡は検出できなかった。本遺構の南東側にも約 60cm 石列が検出さ

れた。石組遺構あるいは石敷遺構の一部の可能性がある。遺物は陶器 壺・鉢・擂鉢 (5・27・28) が出土した。時期は不明。

性格不明遺構 SX-31（第４図）

調査区南半東端で検出した。SX-31 は完形の天目２点（89・90）である。包含層掘削中に出土したが、どのような遺構に伴うのかは分からなかった。90 は高台内に墨書がある。89・90 とも瀬戸産の天目の可能性がある。時期は輸入陶磁器であるならば 14 世紀前後、瀬戸産であるならば 16 世紀～ 17 世紀である。

性格不明遺構 SX-32・33（第６図）

調査区南半中央やや北寄りで検出した。SX-33 は 1.0m × 0.7m の範囲で石が集中出土したもので、石敷遺構の一部の可能性がある。SX-32 は SX-33 北東から出土した土師器坏群である。土師器坏３点が図化できた（91 ～ 93）。時期は 13 世紀である。

ピット P-6（第６図）

調査区北半南側で検出した。1.0m × 0.7m の平面楕円形を呈し、深さ 0.15m を測る。底面はほぼ水平である。遺物は土師器・皿が出土している（222）。時期は 13 世紀後半～ 14 世紀前半か。

２. 第２面

溝 SD-17（第９図）

調査区北半西側で検出した。SX-14 を切り、北東－南西方向に走る溝である。試掘トレンチに切られるが、その先では溝は検出されなかった。SX-15 との前後関係は不明。残存長 4.0m、幅 30cm、深さ 10 ～ 15cm を測る。図化可能な遺物は出土しなかった。時期は不明。

土坑 SK-34（第９図）

調査区南半中央付近で検出した。直径 80cm の円形の範囲で石が集中出土したもの。中央がやや凹んだ状態であった。石敷遺構の一部とも考えられたが、半裁の結果、径 110cm、深さ 70cm の土坑の中層に石を集中して埋めたものであると判明した。径 50cm 前後の柱の基礎であろうか。遺物は瓦器・皿が出土した (94)。時期は不明。

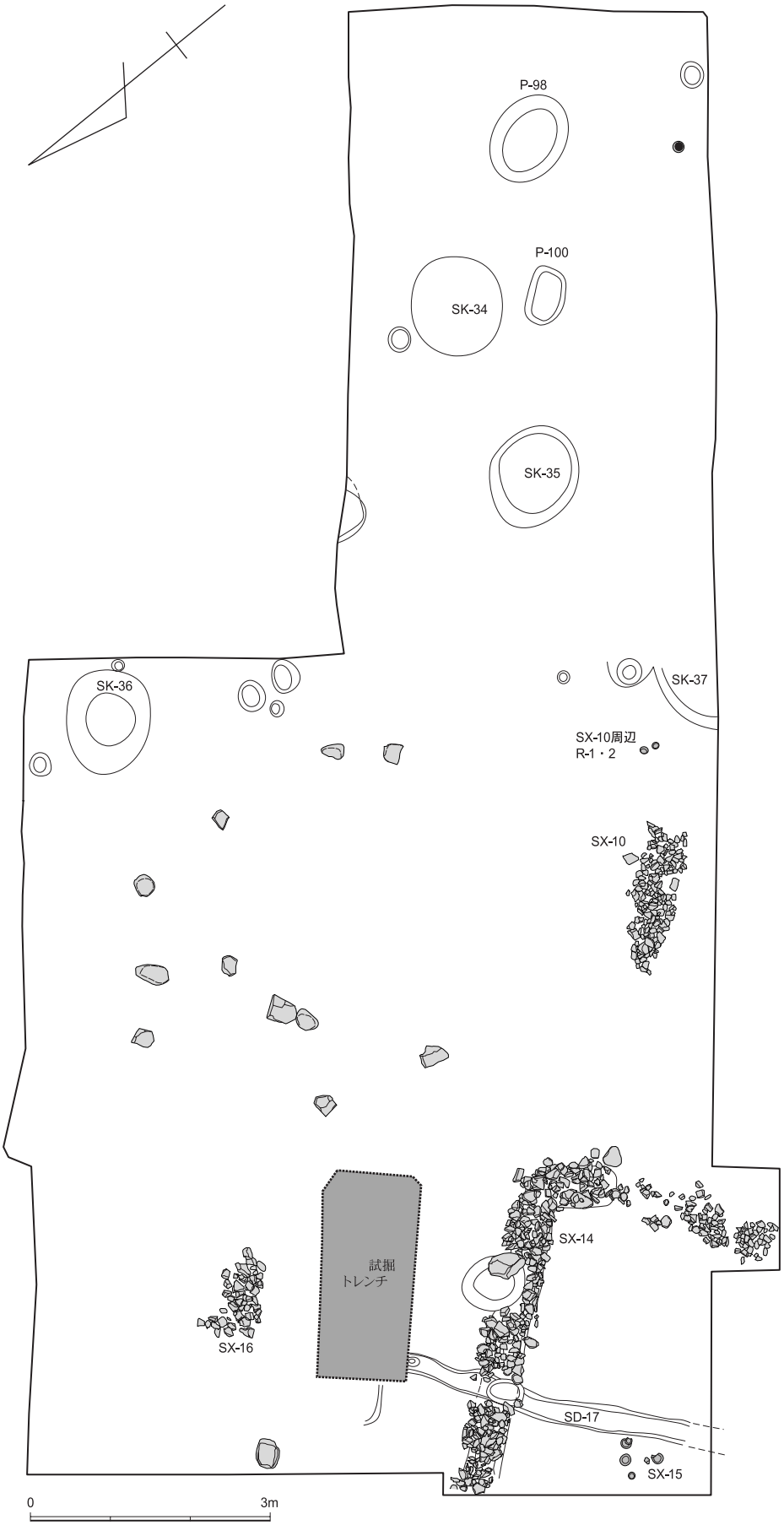
性格不明遺構 SX-10（第９図）

調査区北半南側で検出した。1.8m × 0.5m の範囲で石が集中出土したもの。第１面でも一部確認されたが、基礎となる部分は第２面であったため、第２面の遺構とした。石敷遺構の一部と考えられるが、SX-14 に比べ石が小さく並べ方も一定ではないため、廃棄された石群の可能性もある。遺物は土師器皿が出土した (39・40)。時期は不明。

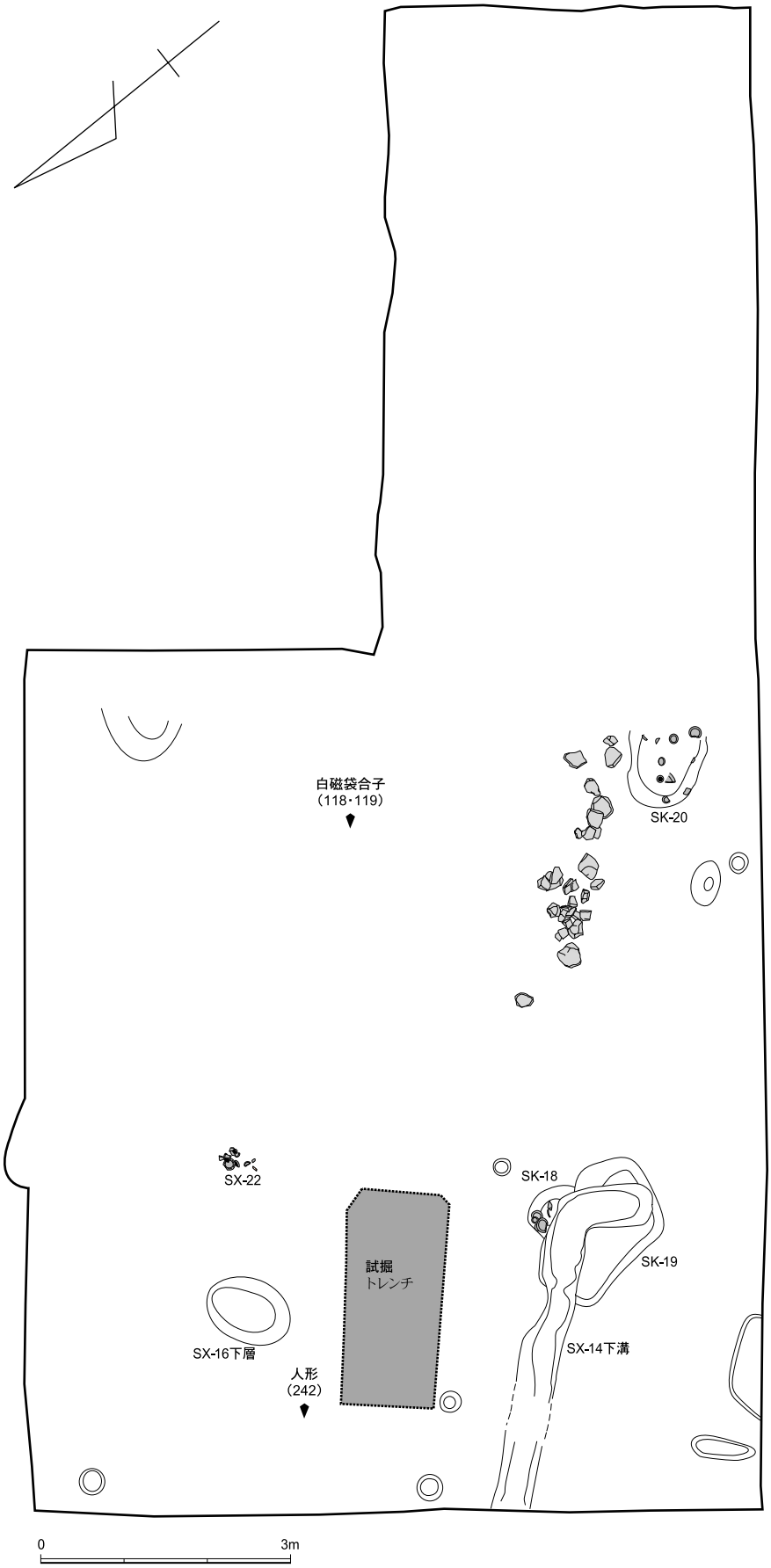
石敷遺構 SX-14（第９図）

調査区北半西側で検出した。石敷きの幅 60cm。調査区外より北西－南東方向に約４m、110° 前後で南西方向に屈曲した後、石の並びがまばらになって西南西方向に並ぶ。第１面でもこの場所で石群が確認され SX-6 としたが、SX-14 の上層であると判断した。石を外したところ、幅 40cm、深さ 15cm の溝状遺構となった。この石敷遺構を造る際に溝を掘り、その中に石を敷き詰めていったものと考えられる。溝が屈曲部部分でとぎれ、石の並びもまばらになるのは、この先が破壊されたためと推定される。従って屈曲部より先は旧状を留めていない可能性がある。博多遺跡群では類例があり、建物の基礎と考えられる。遺物は上層の SX-6 から土師器・皿 (29)、陶器 壺・甕 (30・31)、土師質土器・片口 (32)、備前擂鉢 (33) が、下層の SX-14 から陶器・耳壺 (46)、土師器・皿 (47 ～ 49) が出土した。

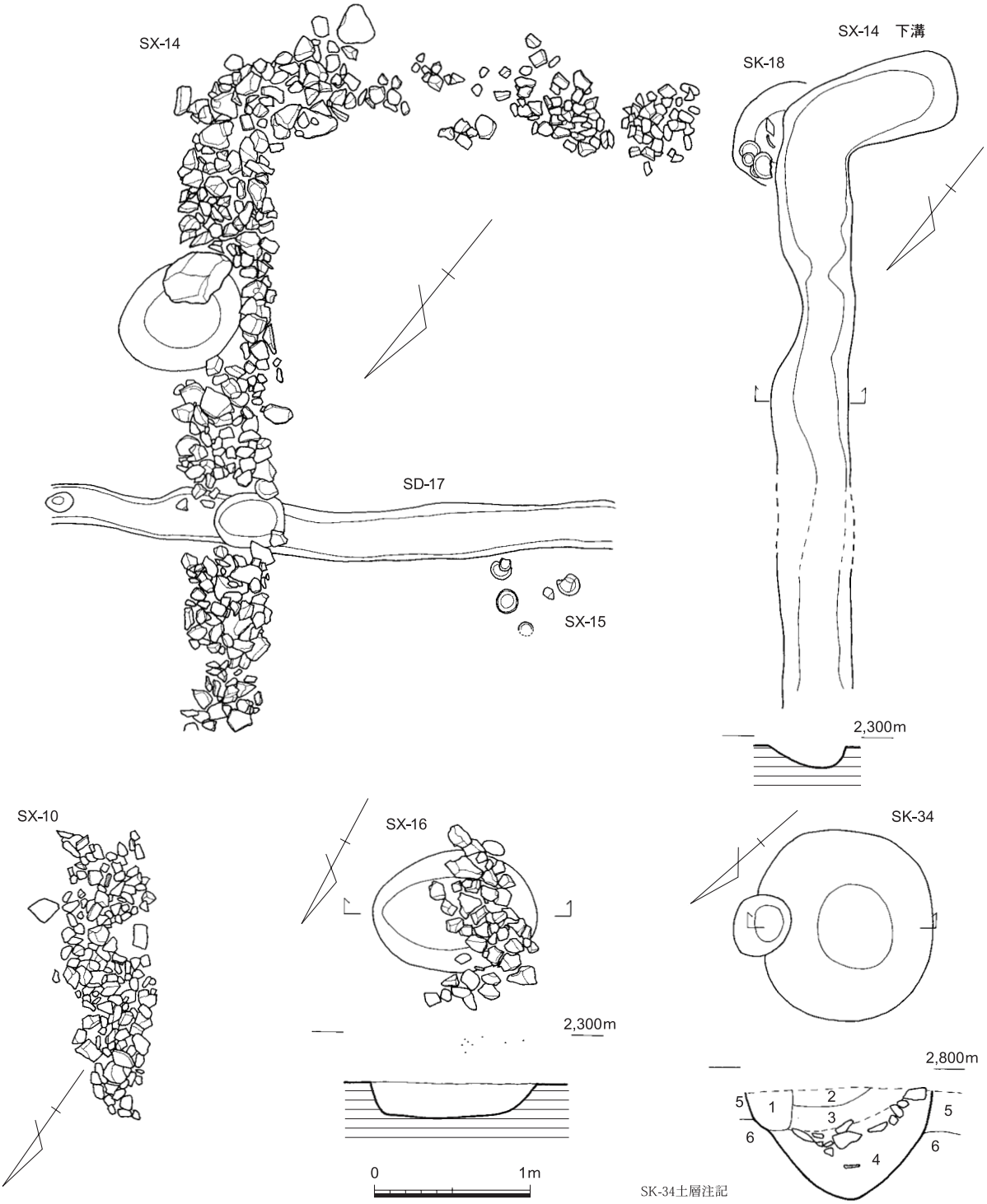
時期は 14 世紀以降であろう。



第７図　　博多遺跡群第 160 次調査　第２面全体図（1/80）



第８図　博多遺跡群第 160 次調査　第３面全体図（1/80）



番号	色調・土質	しまり	粘性	備考
1	黒褐色土	ややあり	なし	ピット
2	暗褐色砂質土	あり	ややあり	砂と1層の互層
3	黒褐色土	なし	ややあり	石は含まない、短期間に堆積
4	黒褐色砂質土	なし	ややあり	砂・レキ多く含む、炭焼土含む
5	黒褐色砂質土	あり	ややあり	
6	暗褐色砂	なし	なし	砂やや含む

第９図　　SX-10・SX-14・SX-16・SD-17・SK-34（1/40）

性格不明遺構 SX-15（第 9 図）

調査区北半西側で検出した。土師器が直径 60cm の円の範囲で集中出土している。6 枚以上の土師器皿が出土した。周辺の土に違いはみられず、どのような状況で廃棄もしくは埋納されたものかは不明。SX-15 との前後関係も不明。図化可能な遺物は土師器坏・皿 6 点であった（50 ～ 55）。時期は 13 世紀前半～ 14 世紀後半である。

性格不明遺構 SX-16（第 9 図）

調査区北半北側で検出した。1.2m × 0.6m の範囲で石が集中出土したもの。第 3 面調査時に SX-16 と同じ場所で土坑が確認され、第 3 面の土坑と第 2 面の石群を同一の遺構 SX-16 とした。石の並びと、土坑の方向が一致しないため、別の遺構である可能性もある。石敷遺構の一部あるいは柱の基礎と考えられるが、SX-14 に比べ石が小さく並べ方も一定ではないため、廃棄された石群の可能性もある。図化可能な遺物は出土しなかった。時期は不明。

３. 第 3 面

土坑 SK-18（第 6 図）

調査区北半西側、SX-14 屈曲部の下で検出した。70cm × 50cm 以上の平面楕円形を呈する土坑。深さ 20cm を測る。SK-19 に切られた後、SX-14 下溝に切られる。遺物は土師器 坏・皿 (56 ～ 60) が出土した。時期は 13 世紀前半である。

土坑 SK-19（第 6 図）

調査区北半西側、SX-14 屈曲部の下で検出した。170cm × 100cm の平面隅丸長方形を呈する土坑。深さ 20cm を測る。SK-18 を切った後、SX-14 下溝に切られる。図化可能な遺物は出土しなかった。時期は不明。

土坑 SK-20（第 6 図）

調査区北半南端で検出した。100cm × 100cm 以上を測る平面楕円形を呈する土坑。深さ 30cm を測る。遺構は調査区南半に延びるが、南半調査時に続きを見つけることができなかった。遺物は土師器 坏・皿 (61 ～ 69) が出土した。時期は 13 世紀後半である。

４. 第 4 面

井戸 SE-25（第 11 図）

調査区北半西側で検出した。上面で 4.5m × 3.5m 以上、中段屈曲部で 3.5m × 3.0m 以上の平面楕円形を呈する井戸。深さ 1.0m、標高 0.800m の高さで湧水があり、これ以上の掘削が困難であったためこの深さで掘り下げを中断した。SK-26 を切っている遺物は土師器 坏・皿（78・79）、青磁・碗 (80) が出土した。時期は 13 世紀である。

井戸 SE-26（第 11 図）

調査区北半西側南寄りで検出した。1.9m × 1.5m 以上の平面楕円形を呈する土坑。深さ 80cm を測る。床面はほぼ水平である。床面中央に直径 60cm 深さ 30cm の土坑を検出した。側板は残存していなかったが、その形状から井戸と推定される。SE-25 に切られている。遺物は瓦玉（81）が出土した。時期は不明。

土坑 SK-23（第 12 図）

調査区北半北側で検出した。1.9m × 1.3m 以上の平面楕円形を呈する土坑。深さ 40cm を測る。床面はほぼ水平である。図化可能な遺物は出土しなかった。時期は不明。

土坑 SK-24（第 11 図）

調査区北半北側東寄りで検出した。2.4m × 1.4m 以上の平面楕円形を呈する土坑。深さ 50cm を測る。床面は地山の傾斜に合わせて北西が高く南東が低い。中層やや下寄りからレキと遺物が出土した。遺物は土師器 坏・皿（76・77）が出土した。時期は 13 世紀前半である。

土坑 SK-27（第 12 図）

調査区北半南側で検出した。2.4m × 1.6m 以上の推定平面隅丸長方形を呈する土坑。深さ 30cm を測る。南側の一部は調査区南半に延びるが、南半調査時に発見できなかった。床面に 3 基のピットと 2 基の土坑を有する。遺物は土師器・坏（82）が出土した。時期は 13 世紀後半か。

土坑 SK-29（第 12 図）

調査区北半西側で検出した。1.2m × 1.7m 以上の推定平面隅丸長方形を呈する土坑。深さ 30cm を測る。床面に３基のピットと２基の土坑を有する。南東側を SE-25 に切られている。遺物は土師器・坏（83）が出土した。時期は 13 世紀中頃か。

土坑 SK-30（第 12 図）

調査区北半北側で検出した。1.5m × 1.2m の平面楕円形ないし隅丸長方形を呈する土坑。深さ 30cm を測る。遺物は土師器 坏・皿（84 ～ 88）が出土した。時期は 13 世紀後半か。

調査区南半石列（第 10 図・PL10-3）

調査区南半北側で検出した。ほぼ等高線の方向に沿うように並んでいる。SK-35 に切られている。遺物は出土しなかった。地山砂丘がこの石列付近を境にして明確でなくなっていくことや、石列より南側でほとんど遺構が検出されなかったことから、この石列が当時の入り江部分と集落部分との境であった可能性がある。

５. その他出土遺物

本調査地点では遺構出土遺物は少なく、遺構外の包含層出土の遺物が大半であった。第 16 図から第 21 図に遺構外出土遺物で図化可能なものを示した。土師器・陶磁器・瓦器・瓦は出土層ごとに並べ、それ以外の特異な遺物は遺構出土・遺構外出土分も併せて第 21 図に示した。また、出土銭貨は一覧表（第２表）にまとめた。

土師器 皿・坏は各層から多数出土している。図化可能だった分は全てロクロ成形の底面回転糸切り離しであり、時期は 13 世紀から 14 世紀が大半である。

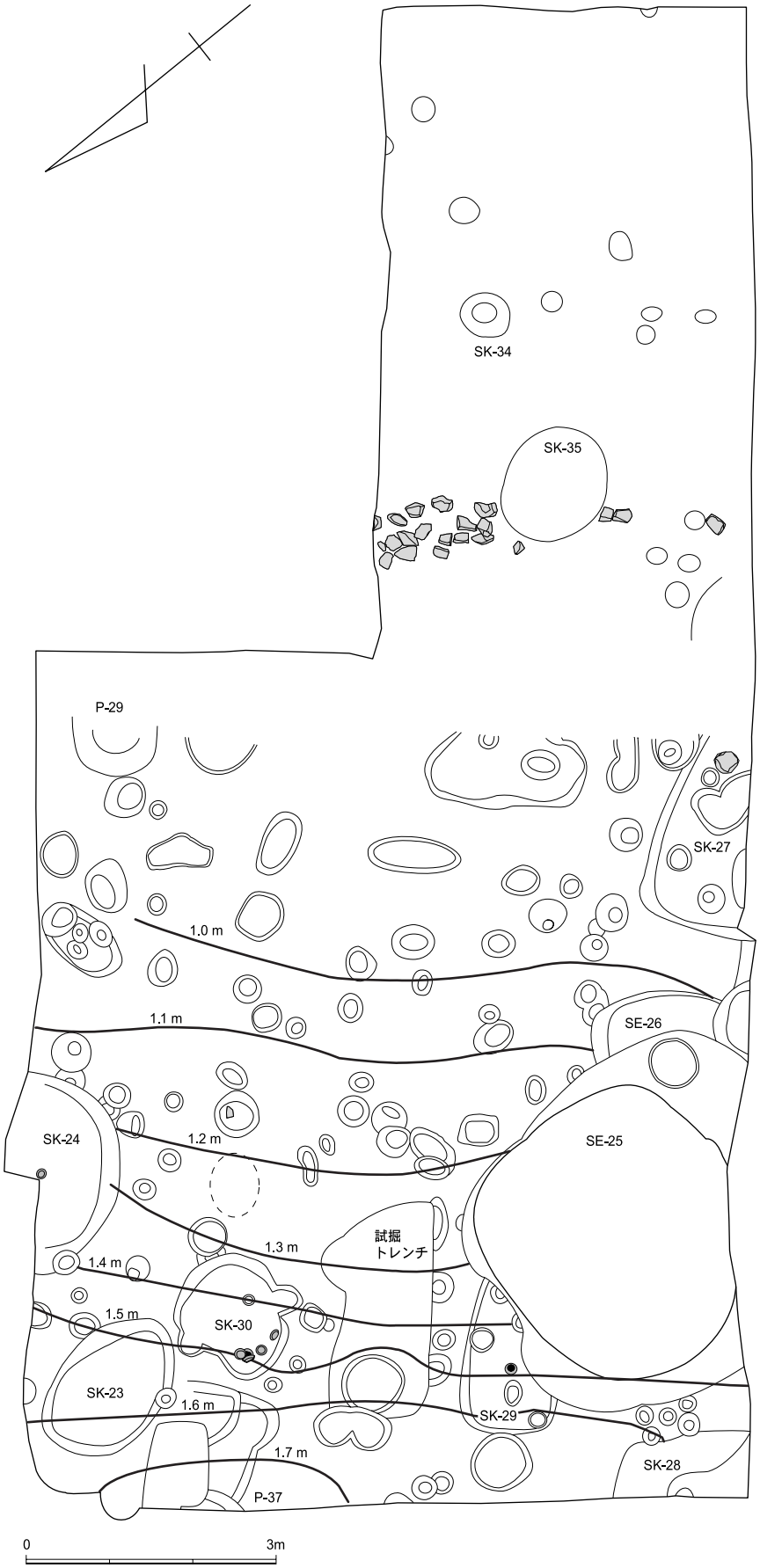
陶磁器は輸入陶磁器として龍泉窯系青磁Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類、同安窯系青磁Ⅰ類、白磁ⅢⅣ・Ⅸ類、白磁碗Ⅸ類、が出土している。一部に朝鮮陶磁器・ベトナム陶磁器・明代の青花も出土している。また国内産陶磁器として瀬戸産のおろし皿（101）などが出土している。

瓦器は層序で述べた②暗褐色砂層（調査時は黒褐色土下層とした）から多く出土している（151 ～ 158）。瓦器は中世前期、12 世紀頃使用されていたものである。

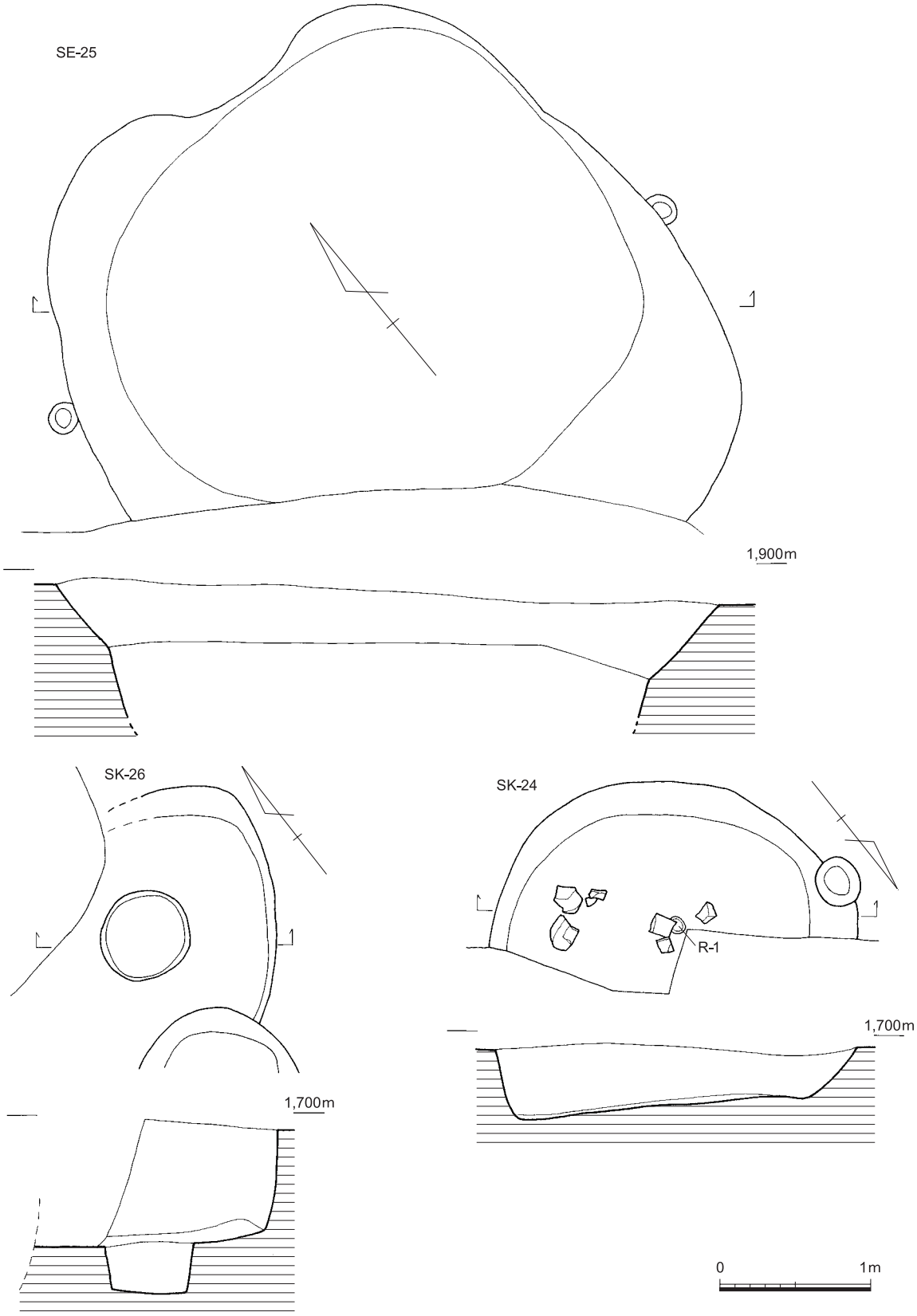
瓦はほとんど出土しなかったが、押圧文軒平瓦（159）が 1 点出土している。

それ以外の遺物として滑石製石鍋、硯、砥石、滑石製錘、土製錘、石鍋転用品、骨製品、人形、フイゴ羽口、鉄滓が出土している。人形は唐人二人が肩を寄せ合っている姿を模したものである（242）。第３面から出土した。フイゴ羽口（245・246）と鉄滓（247）の時期は不明だが、この場所で製鉄が行われていた証拠といえる。

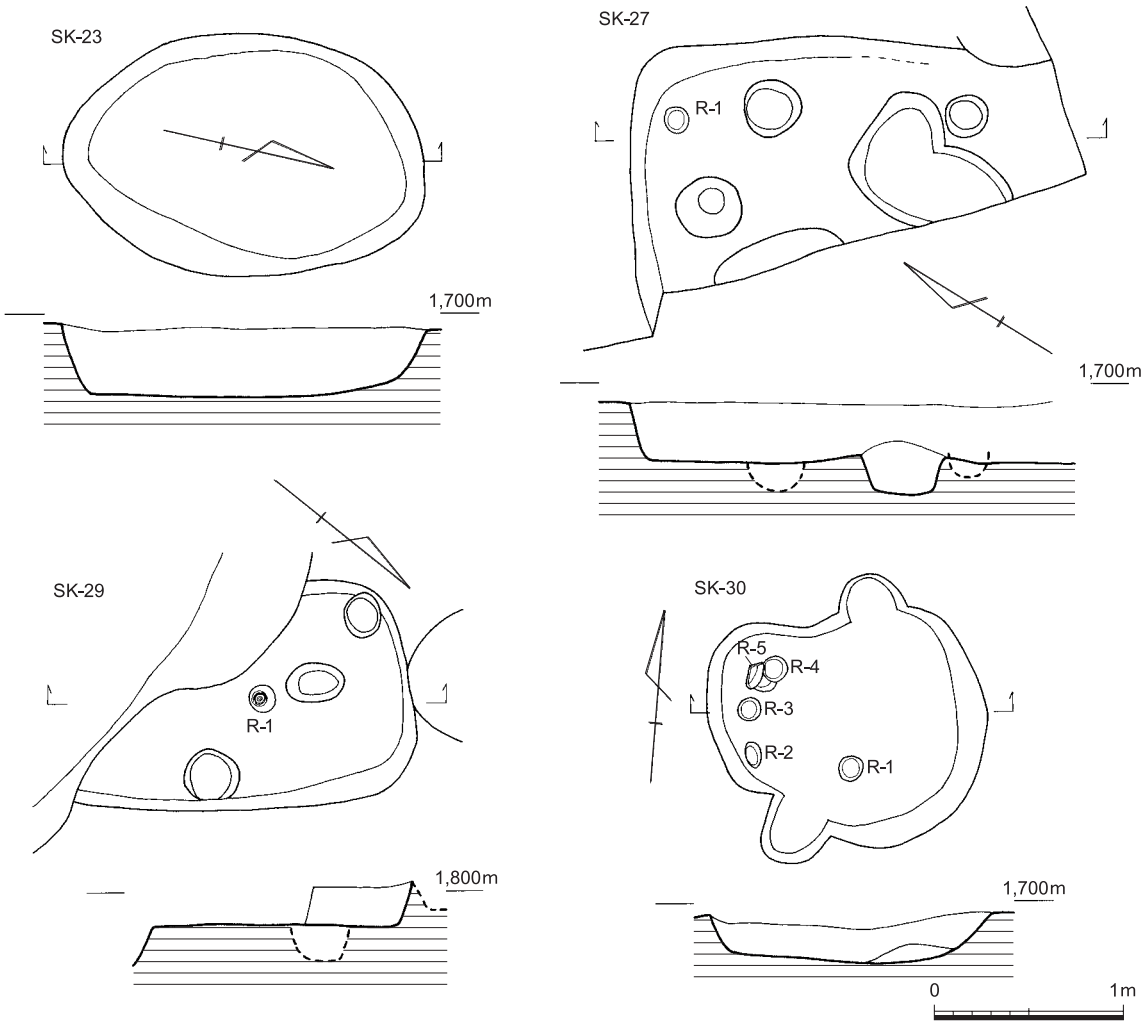
銭貨は 258 点出土し、178 点が判読可能で、34 銭種あった。258 点のうち 2 点が鉄銭であった。至元通寶（元・初鋳 1285 年）が 1 点出土した（255）。博多遺跡群でも出土例の少ないものである。



第 10 図　博多遺跡群第 160 次調査　第 4 面全体図（1/80）



第11図　SE-25・SK-24・SK-26（1/40）



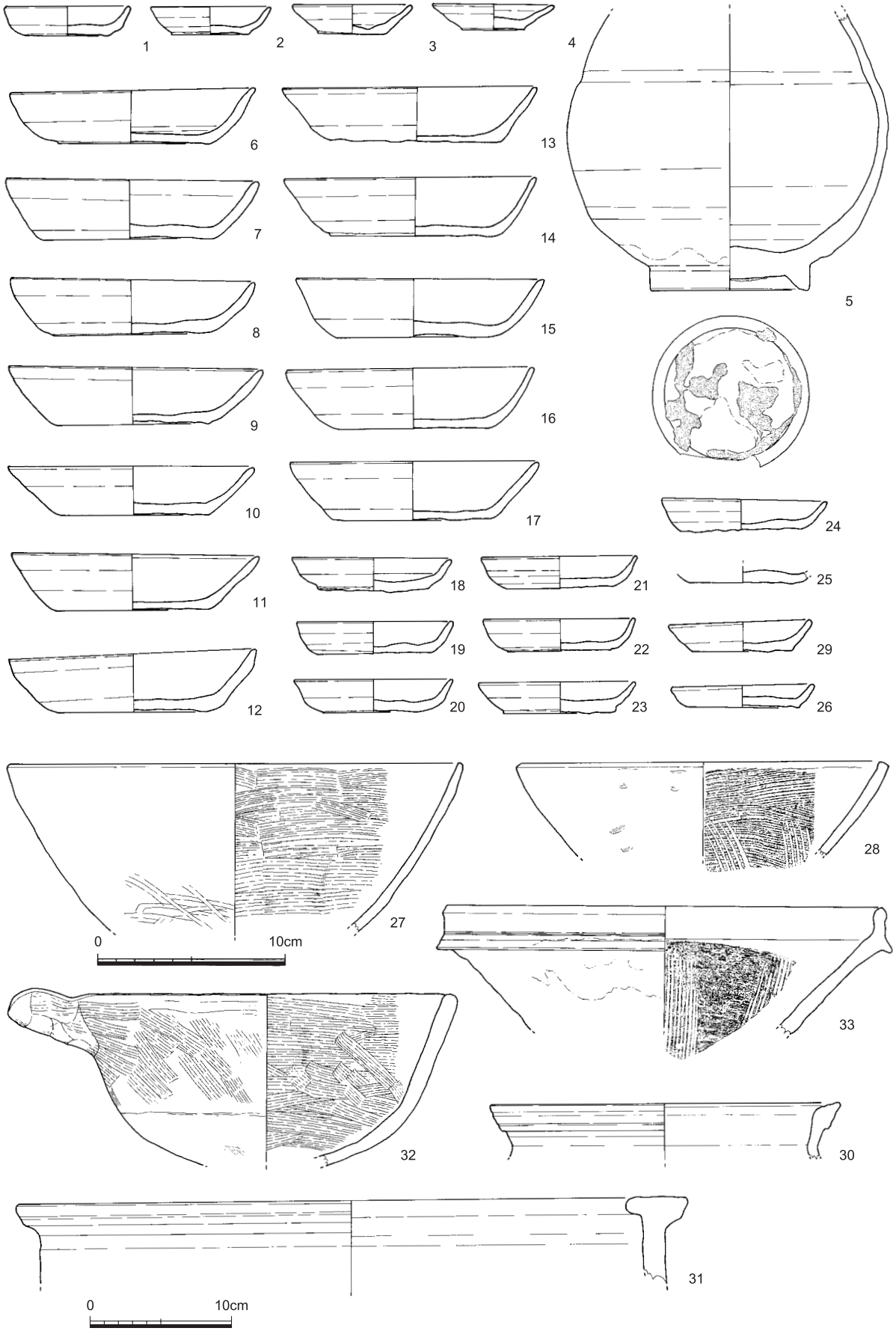
第 12 図　SK-23・SK-27・SK-29・SK-30（1/40）

Ⅳ．小　結

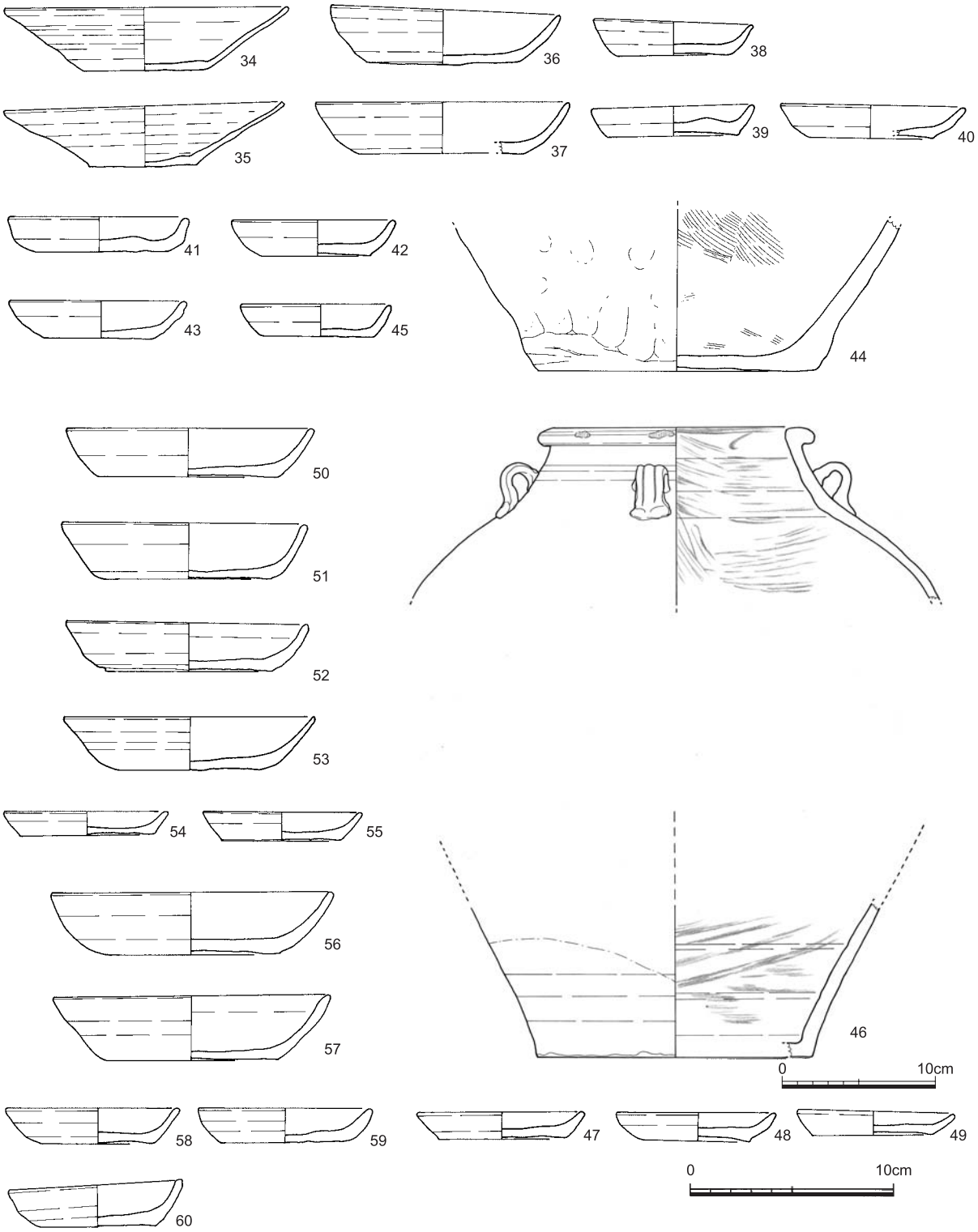
検討の結果、本調査地点は南側に向かって傾斜する砂丘の縁であり、この傾斜面につくられた最も古い遺構面（第 4 面）の時期は 13 世紀であることが分かった。南半の石列を境に遺構自体がなくなることから、この時期の息浜と博多浜の入り江の汀線が本調査地点南半付近を通ることが想定される。

遺物で最も古いものは最下層から出土した 12 世紀代の瓦器であるが、本調査地点ではその時代の遺構は検出されなかった。砂丘の上側にあたる本調査地点北側には 12 世紀の遺構が存在する可能性がある。その後、第 2 面の石敷遺構 SX-14 がつくられた 14 世紀以降には、傾斜が黒色系砂質土によって埋められ、水平な土地になっていたと考えられる。

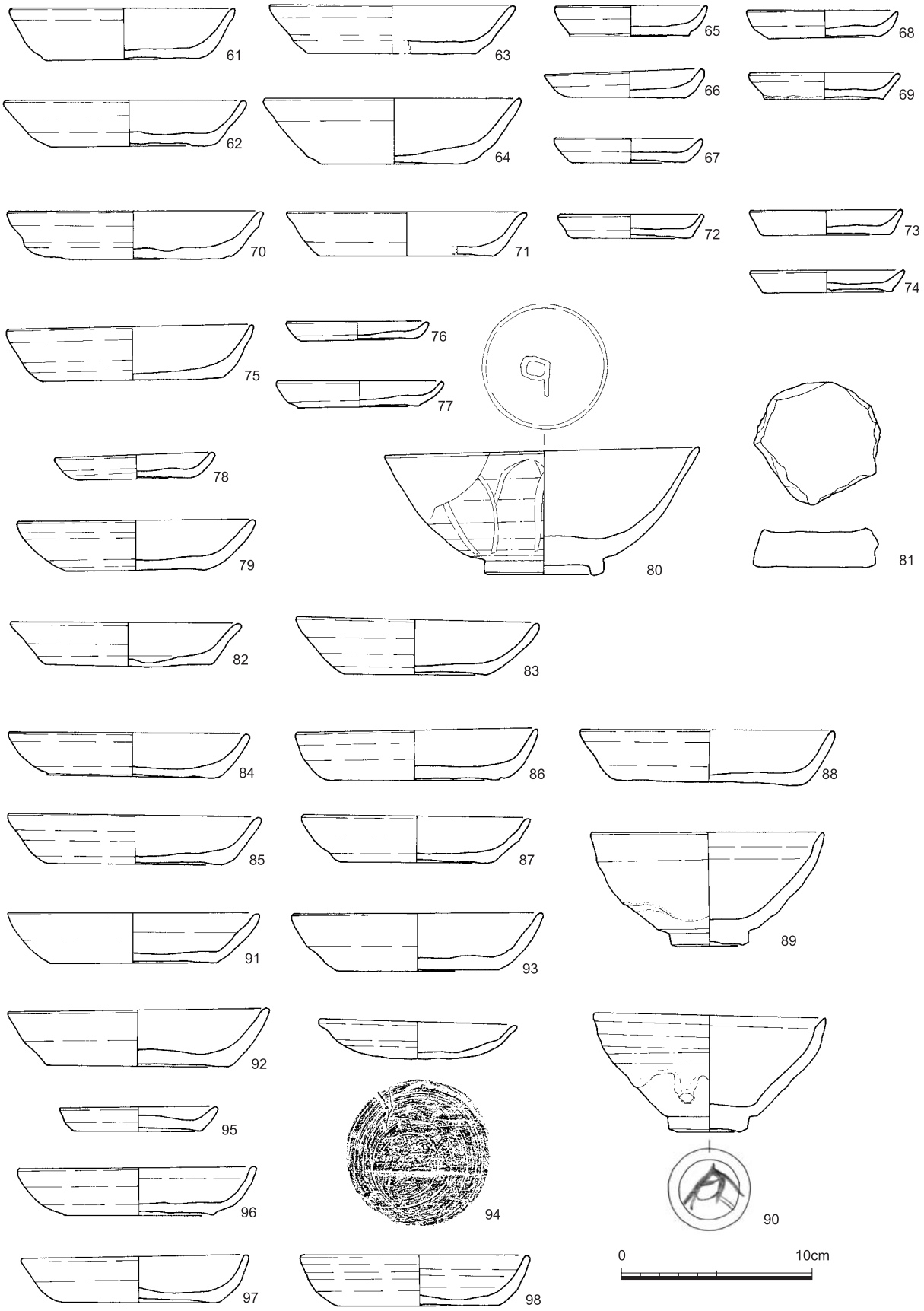
近世以降は土地利用がさらに盛んに行われたようであり、第 1 面の石組遺構が壊されて残存状況が悪いことや、第 1 面から礎石と考えられる石が多数検出されたことなどから明らかである。



第13図　SK-1・4　SX-2・5・6出土遺物（1/3・1/4）



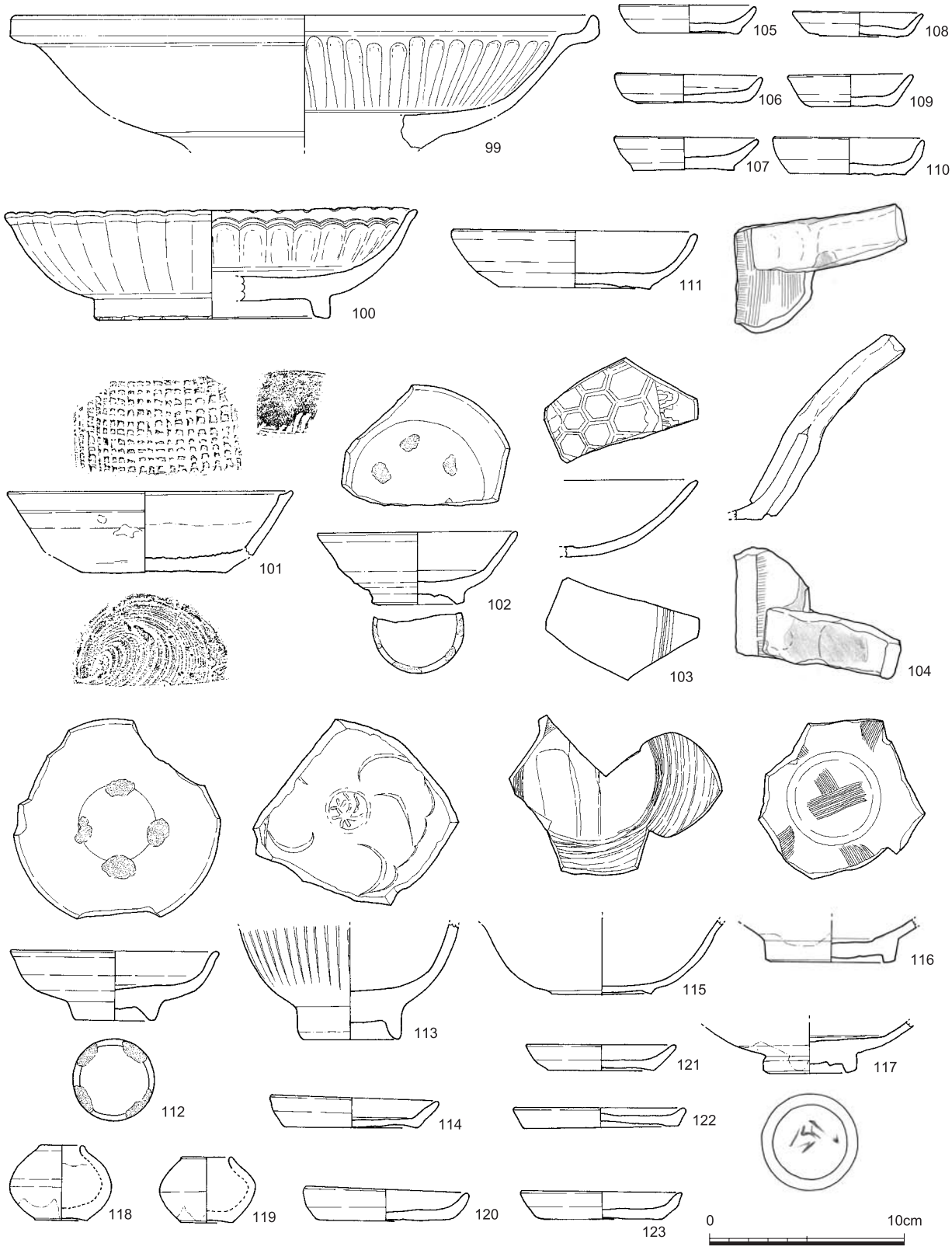
第 14 図　SK-12・13・15・18　SX-8・10・11・14 出土遺物（1/3・1/4）



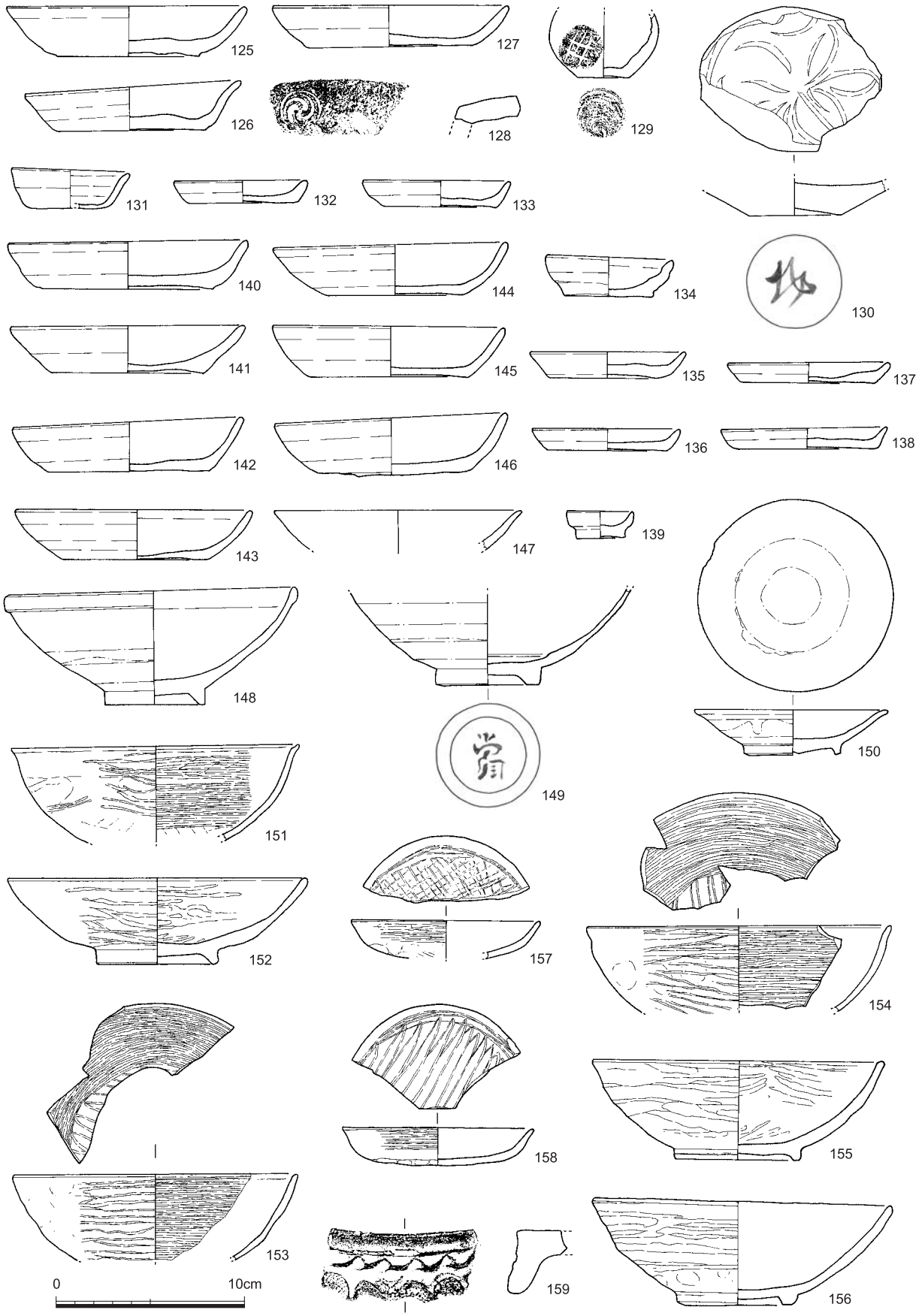
第 15 図　SE-25・26　SK-20・24・27・29・30・35　SX-22・31・32 出土遺物（1/3）

第１表　遺構出土遺物観察表

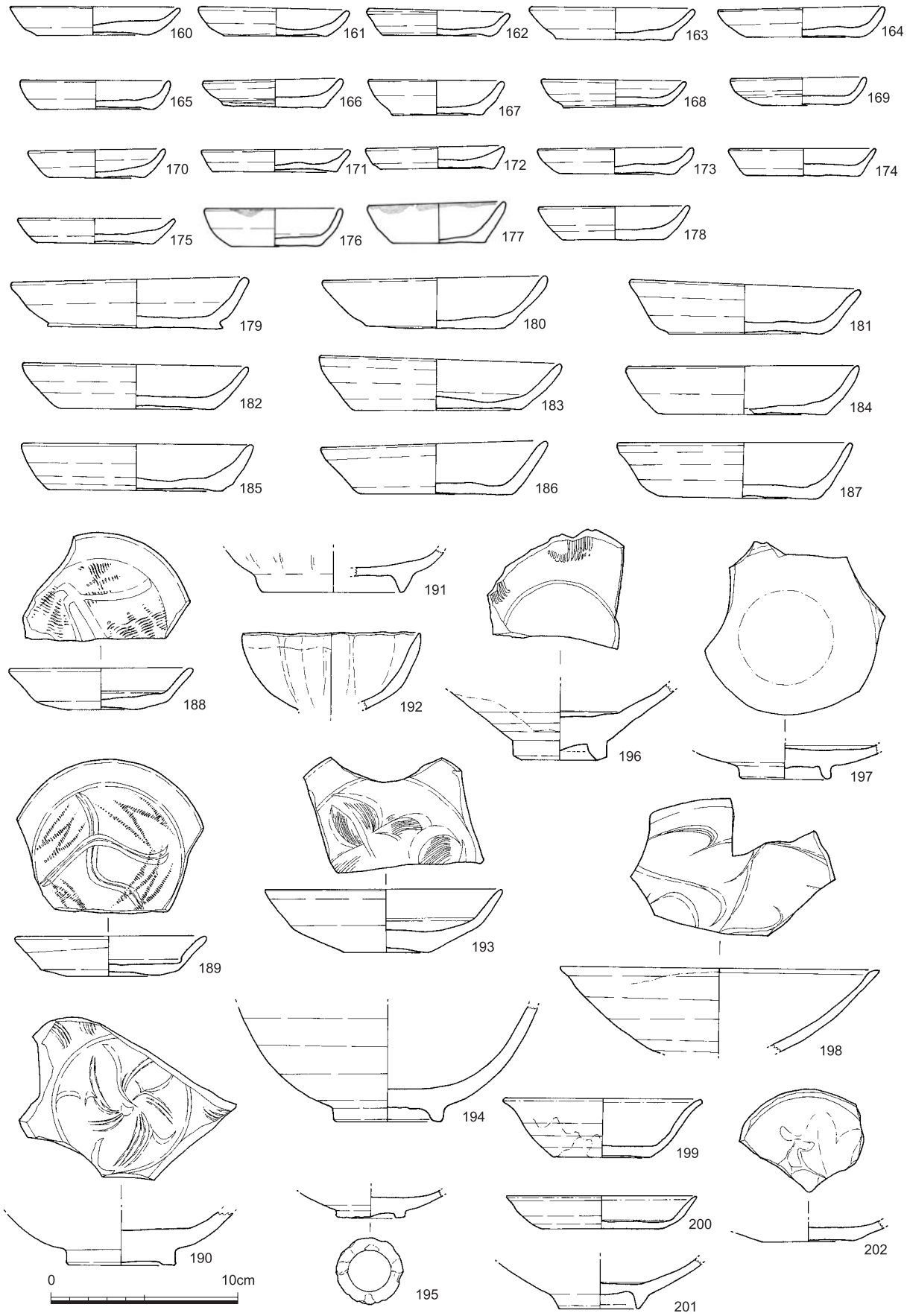
図面	番号	出土遺構	位置・層位	器種・器形	法量　cm　（　）は復元・残			胎土	色調・釉	調整	焼成	備考（陶磁分類は太宰府分類による）
					口径	底径	器高					
第 13 図	1	SK-1	上層	土師器・皿	6.7	4.5	1.55	精良	鈍い黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 13 図	2	SK-1	上層	土師器・皿	6.4	4.1	1.5	精良	橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 13 図	3	SK-1	下層	土師器・皿	6.3	3.6	1.6	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 13 図	4	SK-1	下層	土師器・皿	6.4	3.3	1.4	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 13 図	5	SX-5	上層	陶器・壺		8.3		明褐色・砂粒含む	釉オリーブ灰色	ロクロ・高台削り出し	良好	高台露胎・底部砂付着
第 13 図	6	SX-2	R-3	土師器・坏	13.1	8.0	3.0	精良	明黄褐	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	7	SX-2	R-1	土師器・坏	13.5	8.5	3.2	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	8	SX-2	R-4	土師器・坏	13.0	7.8	3.1	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	9	SX-2	R-8	土師器・坏	13.5	8.1	3.2	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	10	SX-2	R-11	土師器・坏	13.1	7.5	2.5	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	11	SX-2	R-14	土師器・坏	13.1	8.2	3.2	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	12	SX-2	R-18	土師器・坏	13.1	8.0	3.3	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	13	SX-2	R-13	土師器・坏	13.5	9.0	2.9	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	14	SX-2	R-2	土師器・坏	13.4	8.5	3.1	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	15	SX-2	R-12	土師器・坏	13.3	8.0	3.3	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	16	SX-2	R-19	土師器・坏	13.1	8.0	3.3	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	17	SX-2	R-19	土師器・坏	13.2	8.3	3.1	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	18	SX-2	R-5	土師器・皿	8.5	5.8	1.8	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	19	SX-2	R-6	土師器・皿	8.3	6.0	1.8	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 13 図	20	SX-2	R-7	土師器・皿	8.4	5.5	1.7	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 13 図	21	SX-2	R-9	土師器・皿	(8.2)	5.7	1.7	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	22	SX-2	R-10	土師器・皿	8.0	5.5	1.7	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 13 図	23	SX-2	R-17	土師器・皿	8.3	6.0	1.8	精良	灰黄褐	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	24	SX-2	R-15	土師器・皿	8.8	6.5	1.8	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	25	SX-2	R-16	土師器・皿		5.8		精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	底部のみ残存
第 13 図	26	SK-4		土師器・皿	7.6	6.0	1.3	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 13 図	27	SX-5	R-3	無釉陶器・鉢	(24.0)			黄色味を帯びた灰白色・砂含む		ハケメ	良好	外面煤付着
第 13 図	28	SX-5	R-5	無釉陶器・擂鉢	(26.9)			粗	にぶい橙	ナデ・内面横ハケメ	良好	口縁残存
第 13 図	29	SX-6		土師器・皿	7.6	5.4	1.7	精良	灰黄褐	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 13 図	30	SX-6	R-1	陶器・壺	(18.6)			灰色・白色粒子含む		ロクロ	良好	
第 13 図	31	SX-6	R-2	陶器・甕	(47.6)			砂粒含む	灰オリーブ色	ロクロ	良好	口縁部残存
第 13 図	32	SX-6	周辺 R-1	土師質土器・片口	(20.2)			砂粒含む		ハケメ・外底ナデ	良好	煤付着
第 13 図	33	SX-6	周辺 R-2	備前Ⅳ期・擂鉢	(31.0)			大粒砂粒含む・堅い	褐灰	ロクロ	良好	
第 14 図	34	SX-8	R-1	土師器・坏	13.9	5.8	3.1	精良	淡黄	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	京都系？
第 14 図	35	SX-8	R-4	土師器・坏	13.8	5.3	31	精良	淡黄	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	京都系？
第 14 図	36	SX-8	R-2	土師器・坏	11.3	7.5	3.0	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 14 図	37	SX-10	R-1	土師器・坏	12.4		2.5	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	底部欠損
第 14 図	38	SX-8	R-3	土師器・皿	7.8	5.3	1.9	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 14 図	39	SX-10	R-1	土師器・皿	8.0	6.4	1.5	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	40	SX-10	R-2	土師器・皿	9.1	6.2	1.6	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 14 図	41	SX-11	R-1	土師器・皿	8.8	6.4	1.6	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	42	SX-11	R-2	土師器・皿	8.0	5.3	1.8	精良	明黄褐	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	43	SX-11	R-3	土師器・皿	8.6	5.4	1.8	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	44	SK-12	周辺 R-1	無釉陶器・甕		13.4		淡黄色		外面指押さえ・内面ハケメ後ナデ	良好	底部残存
第 14 図	45	SK-13		土師器・皿	7.3	5.1	1.6	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	46	SX-14		陶器・耳壺	18.0	18.0		赤橙色・2mm以下の石英，長石，黒色粒多く，3mm大の赤橙粒子若干含む	暗赤褐不透明釉の上から褐色不透明光沢釉を施す	ロクロ	良好	底部目跡・六耳壺・耳壺Ⅳ-2 類
第 14 図	47	SX-14	石群中	土師器・皿	8.2	6.3	1.3	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 14 図	48	SX-14	内外掘下時	土師器・皿	7.8	5.1	1.3	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	49	SX-14	内外掘下時	土師器・皿	7.7	6.0	1.3	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	50	SK-15	R-1	土師器・坏	12.2	8.8	2.4	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 14 図	51	SK-15	R-3	土師器・坏	12.0	8.0	2.8	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 14 図	52	SK-15	R-5	土師器・坏	11.8	8.1	2.6	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 14 図	53	SK-15	R-4	土師器・坏	(12.2)	(7.0)	2.6	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 14 図	54	SK-15	R-2	土師器・皿	8.0	6.6	1.2	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	55	SK-15	R-6	土師器・皿	7.8	5.8	1.4	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	56	SK-18	R-3	土師器・坏	13.8	8.7	3.1	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	57	SK-18	R-1	土師器・坏	13.5	8.3	3.2	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 14 図	58	SK-18	R-2	土師器・皿	8.5	5.4	1.7	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転ナデ	良好	
第 14 図	59	SK-18	R-5	土師器・皿	8.5	6.2	1.7	精良	にぶい黄橙	ロクロ・内底ナデ・内底ナデ	良好	
第 14 図	60	SK-18	R-6	土師器・皿	8.5	5.5	2.2	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 15 図	61	SK-20	R-1	土師器・坏	11.9	8.0	2.7	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 15 図	62	SK-20	R-3	土師器・坏	12.7	8.3	2.4	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 15 図	63	SK-20	R-7	土師器・坏	(12.7)	8.8	2.5	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	64	SK-20	R-5	土師器・坏	13.4	7.7	3.4	精良	橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 15 図	65	SK-20	R-2	土師器・皿	8.0	6.2	1.7	精良	にぶい黄橙～灰黄褐	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	66	SK-20	R-4	土師器・皿	8.3	6.2	1.5	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	67	SK-20	R-8	土師器・皿	7.8	6.0	1.3	精良	灰黄褐	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	68	SK-20	R-9	土師器・皿	7.9	6.0	1.5	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	69	SK-20	R-10	土師器・皿	8.0	6.2	1.4	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	70	SX-22	R-2	土師器・坏	13.5	9.8	2.5	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 15 図	71	SX-22	R-4	土師器・坏	(12.4)	(9.0)	2.3	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	72	SX-22	R-1	土師器・皿	(7.6)	6.0	1.3	精良	にぶい黄橙～にぶい黄褐	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	73	SX-22	R-6	土師器・皿	8.0	6.7	1.3	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 15 図	74	SX-22	R-3	土師器・皿	8.1	6.8	1.15	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 15 図	75	SK-24	R-1	土師器・坏	13.0	9.2	2.8	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	76	SK-24		土師器・皿	7.3	5.8	1.1	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	77	SK-24		土師器・皿	8.8	6.2	1.4	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 15 図	78	SE-25		土師器・皿	8.3	5.1	1.3	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	79	SE-25		土師器・坏	12.4	7.4	2.6	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 15 図	80	SE-25		青磁・碗	16.3	6.2	6.2 ～ 6.7	灰白色・黒色微粒若干含む	オリーブ黄色	ロクロ	良好	竜泉碗Ⅱ-a 類
第 15 図	81	SE-26		瓦玉	径 6.3 × 6.0			精良	浅黄橙	土師質土器底部打ち欠き	良好	
第 15 図	82	SK-27	R-1	土師器・坏	12.0	8.7	2.3	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 15 図	83	SK-29	R-1	土師器・坏	12.7	7.3	3.0	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	84	SK-30	R-1	土師器・坏	12.6	8.8	2.3	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 15 図	85	SK-30	R-2	土師器・坏	13.1	9.0	2.6	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 15 図	86	SK-30	R-3	土師器・坏	12.7	8.9	2.7	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	煤付着
第 15 図	87	SK-30	R-4	土師器・坏	11.9	8.0	2.5	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	88	SK-30	R-5	土師器・坏	12.2	10.0	2.8	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	89	SX-31	R-2	陶器・天目	12.1	4.0	6.1	灰黄褐色	漆黒不透明釉・赤褐色の下地	ロクロ・高台削り出し	良好	瀬戸？
第 15 図	90	SX-31	R-1	陶器・天目	12.1	4.2	6.2	やや黄色味を帯びた灰白色	にぶい赤褐色（口縁）～褐色	ロクロ・高台削り出し	良好	外底墨書・瀬戸？
第 15 図	91	SX-32	R-1	土師器・坏	13.0	8.6	2.5	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 15 図	92	SX-32	R-3	土師器・坏	13.6	9.5	3.1	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	93	SX-32	R-2	土師器・坏	13.0	8.8	30	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 15 図	94	SK-34		瓦器・皿	10.3	2.0	2.1	精良	外黒・内灰白	ロクロ・糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 15 図	95	SK-35		土師器・皿	8.3	6.6	1.3	精良	にぶい褐		良好	
第 15 図	96	SK-35		土師器・坏	12.5	8.0	2.5	精良	褐灰	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 15 図	97	SK-35		土師器・坏	11.9	8.3	2.4	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 15 図	98	SK-35		土師器・坏	11.9	8.3	2.6	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切	良好	



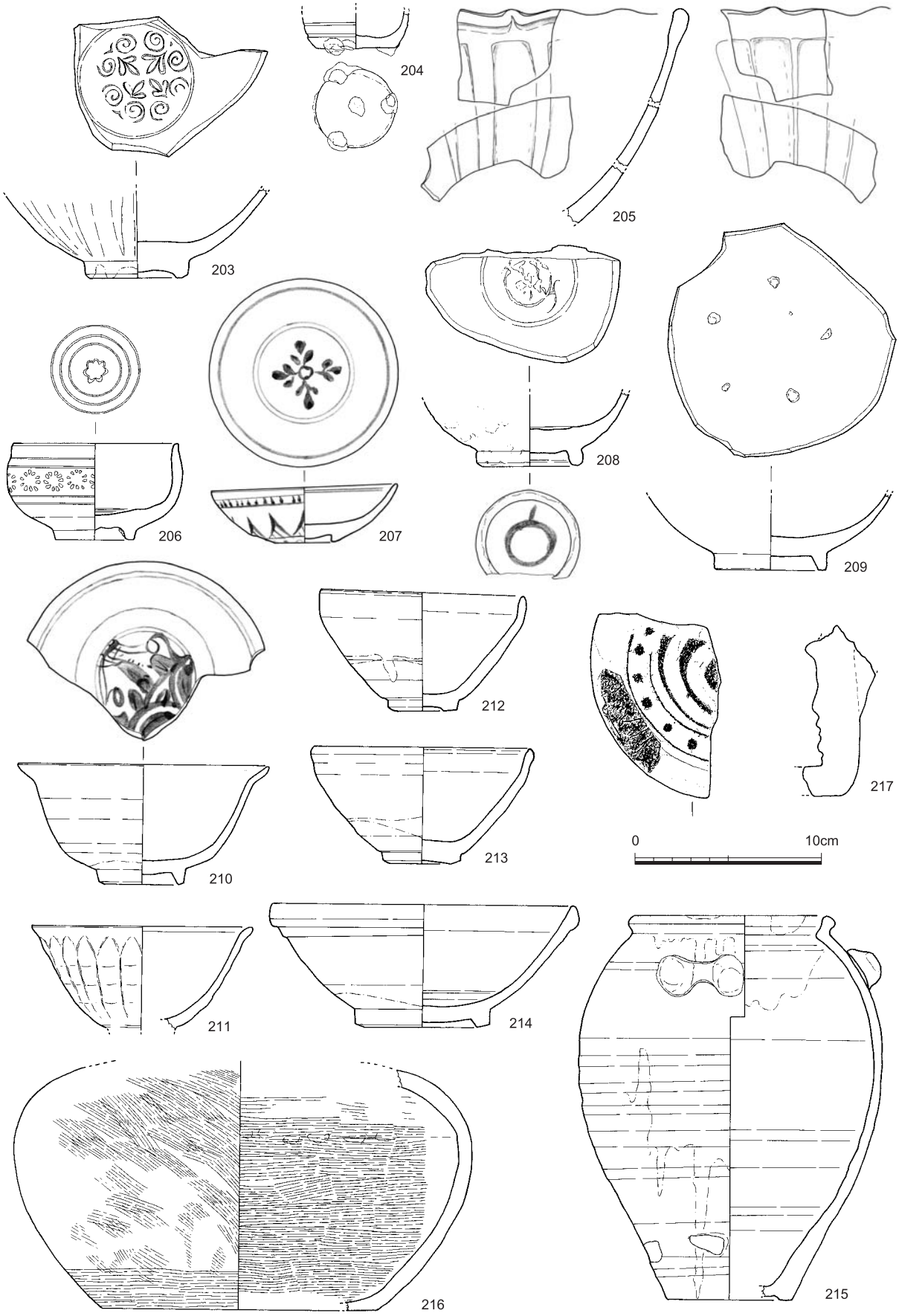
第16図　遺構外出土遺物その１（1/3）



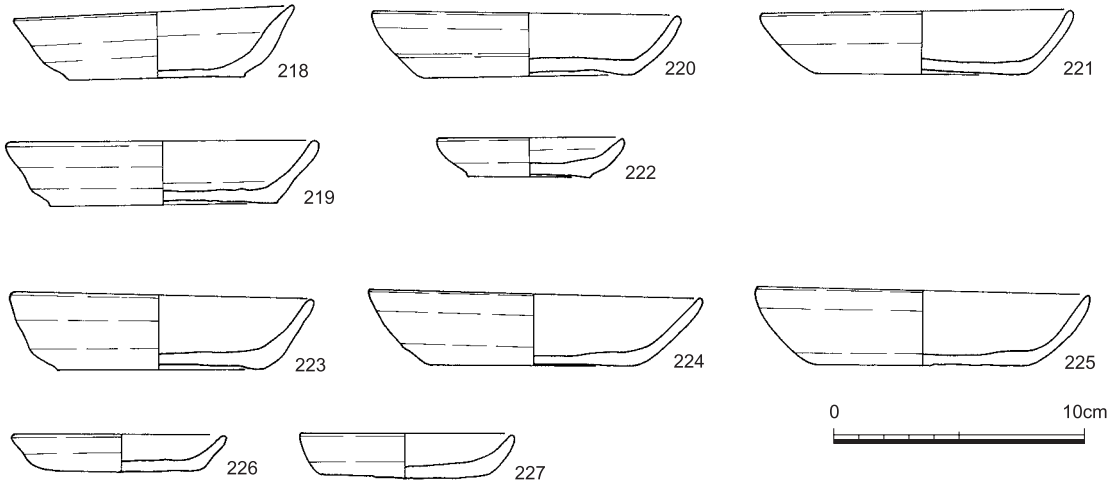
第 17 図　遺構外出土遺物その２（1/3）



第 18 図　遺構外出土遺物その３（1/3）



第 19 図　遺構外出土遺物その 4 （1/3）



第 20 図　遺構外出土遺物その５（1/3）

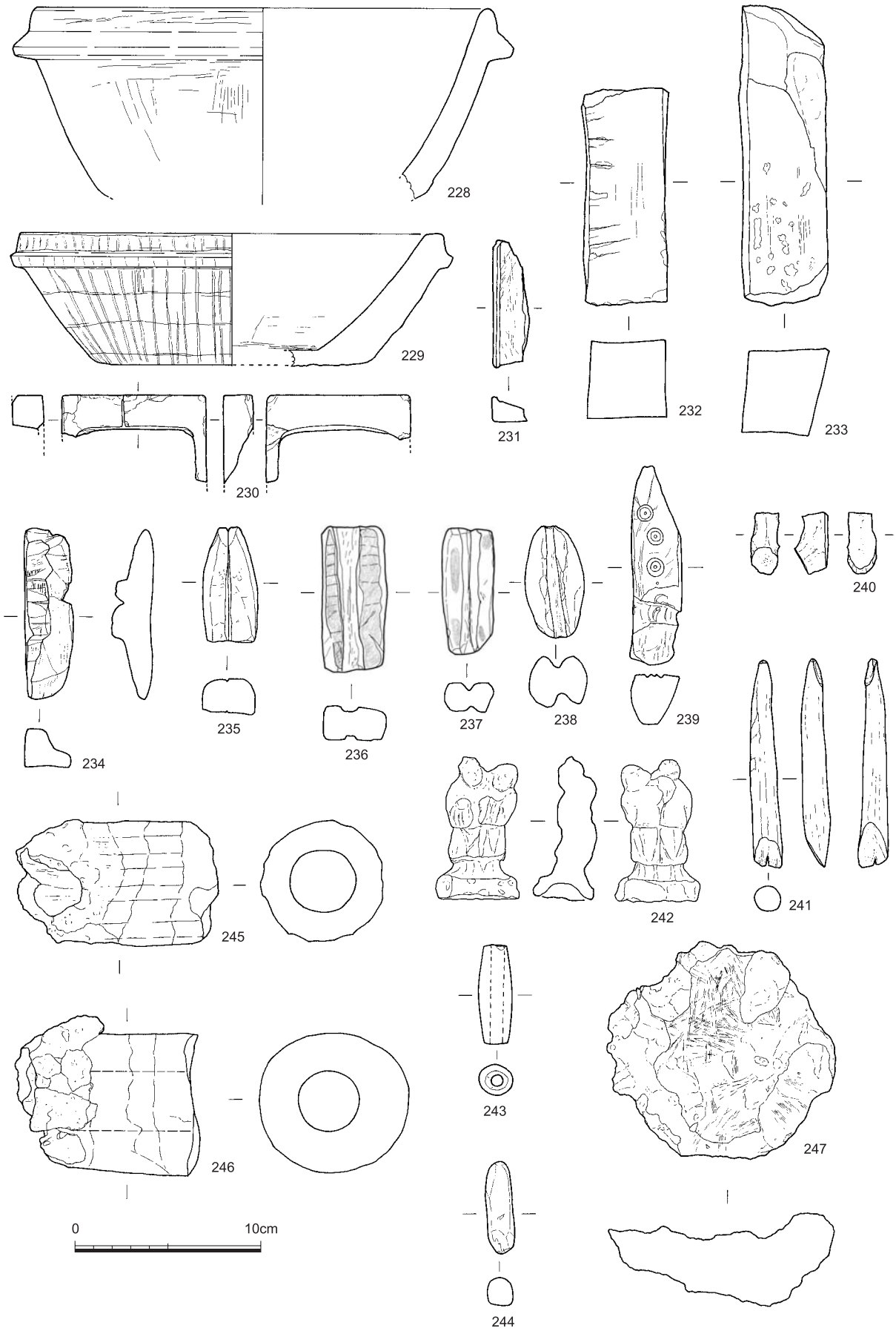
第２表　出土銀貨観察表

番号	遺構名	資料名	備考
248	S-1 上層	銅銭（開元通寶）	
249	S-3,4,5,6,7 の間石組遺構間出土	銅銭（不明）	
250	S-3,4,5,6,7 の間石組遺構間出土	銅銭（不明）	
251	S-3,4,5,6,7 の間石組遺構間出土	銅銭（不明）	
252	S-11	銅銭（□□□寶）	
253	S-12	銅銭（熙寧元寶）	篆書
254	S-12	銅銭（元豊通寶）	行書
255	S-14 内外掘り下げ時	銅銭（至元通寶）	
256	S-25	銅銭（至道元寶）	草書
257	S-25	銅銭（咸平元寶）	
258	S-25	銅銭（熙寧元寶）	真書
259	S-25	銅銭（熙寧重寶）	真書
260	S-25	銅銭（紹聖元寶）	行書
261	S-25	銅銭（大観通寶）	
262	S-25	銅銭（不明）	
263	S-27	銅銭（治平元寶）	篆書
264	S-27	銅銭（□定□寶）	
265	S-33 下層	銅銭（嘉定通寶）	背「六」
266	S-33 下層	銅銭（元□通寶）	篆書
267	S-34	銅銭（景德元寶）	真書
268	S-34	銅銭（元豊通寶）	篆書
269	S-34	銅銭（□□□寶）	
270	P-3	鉄銭（熙寧重寶）	真書
271	P-3	鉄銭（熙寧重寶）	真書
272	P-36	銅銭（不明）	
273	P-57	銅銭（元豊通寶）	篆書
274	P-66	銅銭（開元通寶）	
275	P-66	銅銭（至道元寶）	真書
276	P-66	銅銭（皇宋通寶）	真書
277	P-66	銅銭（熙寧元寶）	篆書
278	P-66	銅銭（大観通寶）	
279	P-66	銅銭（大観通寶）	
280	P-66	銅銭（宣和通寶）	分楷
281	P-66（A 群）	銅銭（開元通寶）	
282	P-66（A 群）	銅銭（開元通寶）	真書
283	P-66（A 群）	銅銭（唐國通寶）	篆書
284	P-66（A 群）	銅銭（咸平元寶）	
285	P-66（A 群）	銅銭（祥符元寶）	真書
286	P-66（A 群）	銅銭（祥符元寶）	真書
287	P-66（A 群）	銅銭（天禧通寶）	真書
288	P-66（A 群）	銅銭（天聖元寶）	真書
289	P-66（A 群）	銅銭（皇宋通寶）	篆書
290	P-66（A 群）	銅銭（皇宋通寶）	篆書
291	P-66（A 群）	銅銭（元豊通寶）	篆書
292	P-66（A 群）	銅銭（元豊通寶）	篆書
293	P-66（A 群）	銅銭（元豊通寶）	行書
294	P-66（A 群）	銅銭（紹聖元寶）	篆書
295	P-66（A 群）	銅銭（元符通寶）	行書
296	P-66（A 群）	銅銭（元符通寶）	
297	P-66（A 群）	銅銭（聖宋元寶）	行書
298	P-66（A 群）	銅銭（嘉泰通寶）	背書き有り
299	P-66（A 群）	銅銭（□□□寶）	
300	P-66（A 群）	銅銭（□□元寶）	
301	P-66（A 群）	銅銭（□□元寶）	
302	P-66（A 群）	銅銭（□□元寶）	
303	P-66（A 群）	銅銭（□□通寶）	
304	P-66（A 群）	銅銭（天豊通寶）	篆書
305	P-66（A 群）	銅銭（不明）	
306	P-66（A 群）	銅銭（不明）	
307	第 1 面検出時	銅銭（開元通寶）	
308	第 1 面検出時	銅銭（開元通寶）	
309	第 1 面検出時	銅銭（開元通寶）	
310	第 1 面検出時	銅銭（開元通寶）	
311	第 1 面検出時	銅銭（咸平元寶）	
312	第 1 面検出時	銅銭（祥符元寶）	

番号	遺構名	資料名	備考
313	第 1 面検出時	銅銭（祥符通寶）	
314	第 1 面検出時	銅銭（天聖元寶）	真書
315	第 1 面検出時	銅銭（天聖元寶）	篆書
316	第 1 面検出時	銅銭（景祐元寶）	真書
317	第 1 面検出時	銅銭（皇宋通寶）	真書
318	第 1 面検出時	銅銭（皇宋通寶）	真書
319	第 1 面検出時	銅銭（嘉祐元寶）	
320	第 1 面検出時	銅銭（熙寧元寶）	真書
321	第 1 面検出時	銅銭（熙寧元寶）	真書
322	第 1 面検出時	銅銭（熙寧元寶）	
323	第 1 面検出時	銅銭（熙寧元寶）	真書
324	第 1 面検出時	銅銭（元豊通寶）	篆書
325	第 1 面検出時	銅銭（元豊通寶）	篆書
326	第 1 面検出時	銅銭（元豊通寶）	行書
327	第 1 面検出時	銅銭（元豊通寶）	篆書
328	第 1 面検出時	銅銭（元豊通寶）	行書
329	第 1 面検出時	銅銭（元祐通寶）	篆書
330	第 1 面検出時	銅銭（元祐通寶）	篆書
331	第 1 面検出時	銅銭（元祐通寶）	行書
332	第 1 面検出時	銅銭（紹聖元寶）	行書
333	第 1 面検出時	銅銭（紹聖元寶）	篆書
334	第 1 面検出時	銅銭（紹聖元寶）	行書
335	第 1 面検出時	銅銭（紹聖元寶）	
336	第 1 面検出時	銅銭（元符通寶）	篆書
337	第 1 面検出時	銅銭（大観通寶）	
338	第 1 面検出時	銅銭（政和通寶）	分楷
339	第 1 面検出時	銅銭（政和通寶）	分楷
340	第 1 面検出時	銅銭（慶元通寶）	
341	第 1 面検出時	銅銭（咸淳元寶）	
342	第 1 面検出時	銅銭（□□□寶）	
343	第 1 面検出時	銅銭（□祐通寶）	
344	第 1 面検出時	銅銭（不明）	
345	第 1 面検出時	銅銭（不明）	
346	第 1 面検出時	銅銭（不明）	
347	第 1 面検出時	銅銭（不明）	
348	第 1 面検出時	銅銭（不明）	
349	第 1 面検出時	銅銭（不明）	
350	第 1 面検出時	銅銭（不明）	
351	第 1 面検出時	銅銭（不明）	破片多数
352	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（開元通寶）	
353	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（開元通寶）	
354	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（開元通寶）	
355	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（開元通寶）	
356	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（軋元重寶）	
357	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（祥符元寶）	
358	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（皇宋通寶）	真書
359	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（皇宋通寶）	真書
360	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（至和元寶）	真書
361	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（熙寧元寶）	真書
362	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（熙寧元寶）	真書
363	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（紹聖元寶）	篆書（星孔）
364	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（大観通寶）	
365	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（□□□寶）	
366	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（□平通□）	
367	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（政□□□）	
368	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
369	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
370	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	破片 9 個
371	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
372	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
373	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
374	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
375	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
376	黒褐色土中（1 ～ 2 面間）	銅銭（不明）	
377	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（開元通寶）	

番号	遺構名	資料名	備考
378	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（開元通寶）	
379	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（咸平元寶）	
380	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（祥符元寶）	真書
381	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（祥符元寶）	真書
382	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（祥符通寶）	真書
383	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（皇宋通寶）	篆書
384	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（嘉祐通寶）	真書
385	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（嘉祐通寶）	篆書
386	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（治平元寶）	篆書
387	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（治平元寶）	篆書
388	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（熙寧元寶）	真書
389	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（熙寧元寶）	真書
390	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（熙寧元寶）	篆書
391	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（熙寧元寶）	篆書
392	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（熙寧元寶）	真書
393	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（熙寧元寶）	篆書
394	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（元豊通寶）	行書
395	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（元豊通寶）	篆書
396	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（元豊通寶）	行書
397	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（元豊通寶）	篆書
398	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（紹聖元寶）	篆書
399	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（聖宋元寶）	行書
400	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（□□□寶）	
401	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（□□□寶）	
402	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（□□元寶）	
403	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（□□元寶）	
404	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（□和□寶）	
405	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（□和通□）	
406	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（聖宋□□）	破片 4 個
407	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（不明）	
408	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（不明）	
409	北半黒褐土上層（24-2.0）	銅銭（不明）	破片 3 個
410	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（不明）	
411	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（不明）	
412	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（不明）	
413	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（不明）	
414	北半黒褐土上層（2.4-2.1）	銅銭（不明）	
415	北半黒褐土上層	銅銭（□□通寶）	篆書
416	北半黒褐土下層	銅銭（□□□寶）	
417	北半黒褐土下層	銅銭（□平元寶）	
418	北半黒褐土下層	銅銭（不明）	
419	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
420	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
421	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
422	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
423	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
424	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
425	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
426	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
427	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
428	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
429	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
430	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	背「 ⌒ 」
431	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
432	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	篆書
433	南半黒褐色土	銅銭（開元通寶）	
434	南半黒褐色土	銅銭（軋元重寶）	
435	南半黒褐色土	銅銭（淳化元寶）	行書(磨輪銭)
436	南半黒褐色土	銅銭（咸平元寶）	
437	南半黒褐色土	銅銭（咸平元寶）	
438	南半黒褐色土	銅銭（咸平元寶）	
439	南半黒褐色土	銅銭（咸平元寶）	
440	南半黒褐色土	銅銭（景德元寶）	
441	南半黒褐色土	銅銭（祥符元寶）	真書
442	南半黒褐色土	銅銭（天聖元寶）	真書

番号	遺構名	資料名	備考
443	南半黒褐色土	銅銭（天聖元寶）	真書
444	南半黒褐色土	銅銭（天聖元寶）	真書
445	南半黒褐色土	銅銭（景祐元寶）	真書
446	南半黒褐色土	銅銭（景祐元寶）	篆書
447	南半黒褐色土	銅銭（皇宋通寶）	篆書
448	南半黒褐色土	銅銭（皇宋通寶）	真書
449	南半黒褐色土	銅銭（皇宋通寶）	篆書
450	南半黒褐色土	銅銭（皇宋通寶）	篆書
451	南半黒褐色土	銅銭（皇宋通寶）	真書
452	南半黒褐色土	銅銭（嘉祐元寶）	篆書
453	南半黒褐色土	銅銭（嘉祐元寶）	真書
454	南半黒褐色土	銅銭（熙寧元寶）	篆書
455	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	篆書
456	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	篆書
457	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	篆書
458	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	篆書
459	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	篆書
460	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	行書
461	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	篆書
462	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	
463	南半黒褐色土	銅銭（元豊通寶）	篆書
464	南半黒褐色土	銅銭（元祐通寶）	行書
465	南半黒褐色土	銅銭（元祐通寶）	行書(磨輪銭)
466	南半黒褐色土	銅銭（元祐通寶）	篆書
467	南半黒褐色土	銅銭（元祐通寶）	行書
468	南半黒褐色土	銅銭（紹聖元寶）	篆書
469	南半黒褐色土	銅銭（聖宋元寶）	行書
470	南半黒褐色土	銅銭（聖宋元寶）	行書
471	南半黒褐色土	銅銭（聖宋元寶）	行書
472	南半黒褐色土	銅銭（聖宋元寶）	
473	南半黒褐色土	銅銭（聖宋元寶）	篆書
474	南半黒褐色土	銅銭（大観通寶）	
475	南半黒褐色土	銅銭（政和通寶）	篆書
476	南半黒褐色土	銅銭（政和通寶）	篆書
477	南半黒褐色土	銅銭（正隆元寶）	
478	南半黒褐色土	銅銭（慶元通寶）	背書き有り
479	南半黒褐色土	銅銭（淳祐元寶）	
480	南半黒褐色土	銅銭（洪武通寶）	
481	南半黒褐色土	銅銭（洪武通寶）	
482	南半黒褐色土	銅銭（□□□寶）	
483	南半黒褐色土	銅銭（□□□寶）	
484	南半黒褐色土	銅銭（□□元寶）	
485	南半黒褐色土	銅銭（□□通□）	
486	南半黒褐色土	銅銭（□□通寶）（星孔）	
487	南半黒褐色土	銅銭（□宋通寶）	
488	南半黒褐色土	銅銭（元豊□寶）	篆書
489	南半黒褐色土	銅銭（紹□通寶）	
490	南半黒褐色土	銅銭（不明）	破片 3 個
491	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
492	南半黒褐色土	銅銭（不明）	破片 2 個
493	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
494	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
495	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
496	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
497	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
498	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
499	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
500	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
501	南半黒褐色土	銅銭（不明）	破片多数
502	南半黒褐色土	銅銭（不明）	
503	南半第 2 面検出時	銅銭（開元通寶）	
504	試掘トレンチ	銅銭（寛永通寶）	
505	試掘トレンチ	銅銭（□永通寶）	



第 21 図　石製品・骨製品・土製品・製鉄関連遺物（1/3）

第３表　遺構外出土遺物観察表その１

図面	番号	出土遺構	位置・層位	器種・器形	法量　cm　(　)は復元・残				胎土	色調・釉	調整	焼成	備考（陶磁分類は太宰府分類による）
					口径	胴径	底径	器高					
第 16 図	99		Ⅰ面検出時	青磁・鉢	(30.0)				灰白・黒微粒含む	淡緑・厚くかかり大きく氷裂	ロクロ・ヘラ掘り菊花	良好	竜泉鉢Ⅲ類？
第 16 図	100		Ⅰ面検出時	青磁・皿	21.0		12.0	5.4	灰・黒及び白粒子若干含む・精良	淡緑透明釉・やや白濁・細かな氷裂	ロクロ・高台削り出し	良好	明代・竜泉系・高台内蛇の目釉剥ぎ・輪花状口縁
第 16 図	101		Ⅰ面検出時	陶器・おろし皿	(14.6)		7.3	4.1	灰白・精良	灰不透明釉	ロクロ・底部回転糸切	良好	瀬戸
第 16 図	102		Ⅰ面検出時	陶器・碗	10.2		4.6	3.7	灰白・2㎜以下の白及び黒粒子多く含む	灰オリーブ不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	李朝・見込及び畳付砂目
第 16 図	103		Ⅰ面検出時	青磁・皿					灰白・1㎜以下の赤粒子若干含む	オリーブ黄透明釉・氷裂	ロクロ	良好	亀甲紋
第 16 図	104		Ⅰ面検出時	土師質土器・焙烙？	把手長 11.4	把手幅 2.7～3.0			精良・砂粒含む	浅黄橙～黄橙	ナデ	良好	把手部残存
第 16 図	105		Ⅰ面検出時	土師器・皿	7.1		5.1	1.4	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 16 図	106		Ⅰ面検出時	土師器・皿	7.5		5.4	1.5	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 16 図	107		Ⅰ面検出時	土師器・皿	7.4		5.1	1.9	精良	にぶい褐	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 16 図	108		Ⅰ面検出時	土師器・皿	5.7		4.1	1.3	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 16 図	109		Ⅰ面検出時	土師器・皿	6.5		4.2	1.6	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 16 図	110		Ⅰ面検出時	土師器・皿	7.8		5.7	1.8	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 16 図	111	南半	黒褐色土中 R-1	土師器・坏	(12.5)		7.7	2.9	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 16 図	112		Ⅰ面検出時	陶器・皿	10.6		4.2	3.5	灰白・1㎜以下の白及び黒粒子多く含む	灰不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	李朝・見込及び畳付砂目
第 16 図	113		黒褐色土中	青磁・碗	4.9				灰白・黒微粒含む	淡青白濁釉・厚くかかり氷裂	ロクロ・高台削り出し	やや不良	博多分類竜泉碗Ⅴ類
第 16 図	114		黒褐色土中	土師器・皿	8.6		7.0	1.4	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 16 図	115	南半	Ⅱ面検出時	瓦器・碗			5.1		灰・精良	黒味を帯びた灰白	ヘラ磨き	良好	底部のみ
第 16 図	116	南半	Ⅱ面検出時	白磁・碗			6.5		淡黄・黒微粒若干含む・精良	黄味を帯びた灰白不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	碗Ⅸ類？・底部のみ
第 16 図	117	南半	Ⅱ面検出時	青磁・碗			4.8		灰白・精良	オリーブ黄透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	底部のみ・高台内墨書
第 16 図	118	Ⅲ面	R-1	白磁・袋合子	2.2		2.6	3.8	精良	灰白～オリーブ灰	ロクロ	良好	
第 16 図	119	Ⅲ面	R-1	白磁・袋合子	2.6		2.7	3.3	淡黄・精良	オリーブ灰透明釉	ロクロ	良好	
第 16 図	120	南半東壁トレンチ	最下層	土師器・皿	8.5		6.4	1.8	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 16 図	121	南半	Ⅱ面検出時	土師器・皿	7.6		5.4	1.3		浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 16 図	122	南半	Ⅱ面検出時	土師器・皿	8.8		7.9	1.2		浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 16 図	123	南半東壁トレンチ	最下層	土師器・皿	8.4		6.3	1.4	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 17 図	125	北半	黒褐色土上層	土師器・坏	12.7		7.5	2.9	精良	黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 17 図	126	北半	黒褐色土上層	土師器・坏	11.5		8.0	2.6	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 17 図	127	北半		土師器・坏	12.5		8.6	2.2	精良	橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 17 図	128	北半	黒褐色土上層	土師質土器・火捨					3㎜以下の石英・長石粒多く含む	橙		良好	口縁内面巴紋スタンプ
第 17 図	129	北半	黒褐色土上層	陶器・小壺			3.8		赤褐色・3㎜以下の白及び2㎜以下の黒色粒含む	灰白色	ロクロ・底部回転糸切り	良好	口縁全損
第 17 図	130	北半	黒褐色土上層	青磁・皿			4.9		灰白色・黒色粒多く含む	灰オリーブ色透明釉・氷裂	ロクロ	良好	竜泉皿Ⅰ-1b 類・墨書
第 17 図	131	北半	黒褐色土上層	瓦質土器？・皿	6.2		3.5	2.1	精良	灰色	手捏ね	良好	
第 17 図	132	北半	黒褐色土上層	土師器・皿	7.0		5.7	1.2	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 17 図	133	北半	黒褐色土上層	土師器・皿	7.8		6.0	1.4	精良	橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 17 図	134	北半	黒褐色土下層	土師器・皿	6.7		4.7	2.2	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 17 図	135	北半	黒褐色土下層	土師器・皿	8.2		6.0	1.4	精良	淡黄	ロクロ・・内底ナデ	良好	
第 17 図	136	北半	黒褐色土下層	土師器・皿	7.8		6.1	1.2	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 17 図	137	北半	黒褐色土下層	土師器・皿	8.6		7.0	1.1	精良	明黄褐	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 17 図	138	北半	黒褐色土下層	土師器・皿	8.8		7.3	1.3	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 17 図	139	北半	黒褐色土上層	白磁・ミニチュア碗	3.6		2.6	1.5	灰白色	透明釉・氷裂	ロクロ？		
第 17 図	140	北半	黒褐色土下層	土師器・坏	12.7		9.0	2.6	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 17 図	141	北半	黒褐色土下層	土師器・坏	12.4		8.0	2.6	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 17 図	142	北半	黒褐色土下層	土師器・坏	12.2		8.4	2.8	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 17 図	143	北半	黒褐色土下層	土師器・坏	12.6		7.6	2.7	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 17 図	144	北半	黒褐色土下層	土師器・坏	12.5		7.0	2.8	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 17 図	145	北半	黒褐色土下層	土師器・坏	12.4		8.3	2.7	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 17 図	146	北半	黒褐色土下層	土師器・坏	12.3		7.7	3.2	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 17 図	147		黒褐色土下層	土師器・坏？	(13.0)				精良	橙		良好	丹塗り？
第 17 図	148	北半	黒褐色土上層	白磁・碗	15.5		5.3	6.1	黒色微粒含み気泡多い	淡黄不透明釉・細かな氷裂	ロクロ・高台削り出し	良好	碗Ⅱ-1 類
第 17 図	149	北半	黒褐色土上層	白磁・碗			5.4		灰白色・黒及び白色粒多く含む	淡黄色	ロクロ・高台削り出し	やや不良	高台内墨書
第 17 図	150	北半	黒褐色土上層	白磁・皿	10.3		5.1	2.4	灰白色・黒色微粒含む	灰白色不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	皿Ⅲ-1 類・見込蛇の目釉剥ぎ
第 17 図	151	北半	黒褐色土下層	瓦器・碗	(15.2)				灰白・精良	灰	ヘラ磨き	良好	
第 17 図	152	北半	黒褐色土下層	瓦器・碗	15.8		6.4	4.5	精良	灰	ヘラ磨き	良好	
第 17 図	153		黒褐色土下層	瓦器・碗	(15.0)				精良	黒	ヘラ磨き	良好	
第 17 図	154		黒褐色土下層	瓦器・碗	(16.0)				精良	黒灰	ヘラ磨き	良好	

第３表　遺構外出土遺物観察表その２

図面	番号	出土遺構	位置・層位	器種・器形	法量　cm　(　)は復元・残				胎土	色調・釉	調整	焼成	備考（陶磁分類は太宰府分類による）
					口径	胴径	底径	器高					
第 17 図	155		黒褐色土下層	瓦器・碗	(15.4)		6.7	5.7	精良	灰	ヘラ磨き	良好	
第 17 図	156		黒褐色土下層	瓦器・碗	(15.8)		6.0	5.7	精良	外褐・内灰白～褐	ヘラ磨き	良好	
第 17 図	157	北半	黒褐色土下層	瓦器・皿	(10.0)				灰白・白微粒含む・精良	黒みを帯びた灰	ヘラ磨き・外底指押さえ	良好	
第 17 図	158	北半	黒褐色土下層	瓦器・皿	(10.0)		2.0	2.0	黒及び白微粒含む・精良	灰	ヘラ磨き・外底指押さえ	良好	
第 17 図	159		黒褐色土下層	軒平瓦					精良・白粒子若干含む	灰		良好	須恵質
第 18 図	160	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.9		6.0	1.6	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 18 図	161	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.1		5.5	1.5	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転ナデ	良好	
第 18 図	162	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.6		5.8	1.4	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	163	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.8		6.2	1.7	精良	淡黄	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 18 図	164	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.8		6.1	1.7	精良	灰白～淡黄	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	165	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.0		6.2	1.5	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	166	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.6		5.4	1.5	精良	淡黄	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 18 図	167	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.2		4.9	1.9	精良	浅黄橙～橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 18 図	168	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.7		5.5	1.6	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 18 図	169	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.2		4.5	1.5	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 18 図	170	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.3		5.3	1.5	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 18 図	171	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.0		6.6	1.2	精良	淡黄	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	172	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.4		6.0	1.2	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 18 図	173	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.3		6.3	1.5	精良	にぶい褐	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	174	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.8		6.0	1.5	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 18 図	175	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.3		6.2	1.7	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	176	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.3		4.7	2.0	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 18 図	177	南半	黒褐色土	土師器・皿	7.3		5.0	2.2	精良	にぶい黄橙	ロクロ・摩滅	良好	全体に煤付着
第 18 図	178	南半	黒褐色土	土師器・皿	8.1		5.1	1.8	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 18 図	179	南半	黒褐色土	土師器・坏	12.7		9.3	2.8	精良	灰黄褐	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	180	南半	黒褐色土	土師器・坏	1.0		7.5	2.7	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	181	南半	黒褐色土	土師器・坏	12.3		8.0	2.9	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	182	南半	黒褐色土	土師器・坏	12.0		8.0	2.3	精良	にぶい橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	183	南半	黒褐色土	土師器・坏	13.0		9.0	2.9	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 18 図	184	南半	黒褐色土	土師器・坏	12.5		8.5	2.6	精良	橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 18 図	185	南半	黒褐色土	土師器・坏	12.4		9.2	2.5	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	186	南半	黒褐色土	土師器・坏	12.1		8.2	2.9	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	187	南半	黒褐色土中 R-1	土師器・坏	12.5		8.0	3.0	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 18 図	188	南半	黒褐色土	青磁・皿	(9.3)		3.5	2.2	灰白・2㎜以下の黒粒子若干含む・気泡多い	ガラス質・氷裂	ロクロ	良好	同安皿Ⅰ-1b 類
第 18 図	189	南半	黒褐色土	青磁・皿	(8.1)		4.6	2.1	灰白・精良	灰オリーブ透明釉・一部氷裂	ロクロ	良好	同安皿Ⅰ-1b 類
第 18 図	190	南半	黒褐色土	青磁・碗			5.8		灰白・黒微粒含む	オリーブ透明釉・氷裂	ロクロ・高台削り出し	良好	竜泉碗Ⅰ-2a 類・底部のみ
第 18 図	191	南半	黒褐色土	青磁・碗			(7.4)			暗青透明釉・厚い	ロクロ・高台削り出し	良好	竜泉碗Ⅲ-2 類
第 18 図	192	南半	黒褐色土	青磁・小碗	(9.4)				灰白・黒微粒多く含む	淡青	ロクロ後型打ち	良好	竜泉小碗Ⅲ類
第 18 図	193	南半	黒褐色土	青磁・皿	(12.4)		4.4	3.4	灰・黒及び白微粒少量含む	青味を帯びた緑灰透明釉・氷裂	ロクロ	良好	竜泉皿Ⅰ-1c 類
第 18 図	194	南半	黒褐色土				5.8		灰・大きめの気泡有り	灰不透明釉	ロクロ・高台削り出し	やや不良	朝鮮？・底部のみ
第 18 図	195	南半	黒褐色土	白磁・皿			3.7		黄味を帯びた灰白	黄味を帯びた灰白不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	
第 18 図	196	南半	黒褐色土	青磁・碗			(5.0)		灰白・非常に気泡多い	オリーブ透明釉・氷裂	ロクロ・高台削り出し	良好	同安碗Ⅰ類・底部残存
第 18 図	197	南半	黒褐色土	青磁・皿			5.0		灰白	明緑灰不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	見込円形釉剥ぎ
第 18 図	198	南半	黒褐色土	白磁・碗	(17.0)				淡黄・黒微粒含み気泡多い	灰白・氷裂	ロクロ	良好	碗Ⅶ類？
第 18 図	199	南半	黒褐色土	白磁・皿	10.8		5.2	3.1	灰白・黒微粒含む	灰白不透明釉	ロクロ	良好	皿Ⅸ-1b 類
第 18 図	200	南半	黒褐色土	白磁・皿	10.2		6.3	1.8	白・黒微粒含む	灰白不透明釉	ロクロ	良好	皿Ⅳ-1a 類
第 18 図	201	南半	黒褐色土	青磁・碗			(4.4)		灰白・黒微粒含む・精良	淡青透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	竜泉碗Ⅲ-2 類・底部のみ
第 18 図	202	南半	黒褐色土	白磁・皿			(4.8)		やや黄味を帯びた灰白・黒微粒多く含む	灰不透明釉・厚くかかり氷裂	ロクロ	良好	
第 19 図	203	南半	黒褐色土	青磁・碗			5.5		灰・気泡多い	緑を帯びた青灰透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	竜泉碗Ⅱ-c 類・底部のみ
第 19 図	204	南半	黒褐色土	陶器・香炉？			4.2		黄灰・精良	暗赤の下地に白不透明釉	ロクロ？	良好	3 足付き
第 19 図	205	南半	黒褐色土	青磁・鉢					灰白・黒微粒若干含む・精良	淡緑～暗緑・厚い	ロクロ後ヘラ掘り	良好	竜泉系・破片
第 19 図	206	南半	黒褐色土	粉青象嵌陶器・碗	8.6		4.2	5.1	褐色・精良	白～緑灰半透明釉・釜かな氷裂	ロクロ・高台削り出し		李朝？
第 19 図	207	南半	黒褐色土	青花・皿	10.0		3.0	3.1	白・精良	青味を帯びた灰白透明釉	ロクロ・底部削り込み	良好	明代末・碁笥底
第 19 図	208	南半	黒褐色土	青磁・碗			5.6		灰白・白微粒多く含む・気泡有り	淡青白濁釉・厚くかかる	ロクロ・高台削り出し	良好	李朝？
第 19 図	209	南半	黒褐色土	白釉・碗			5.9		黄味を帯びた灰白・黒微粒若干含む	灰白ガラス質・細かな氷裂	ロクロ・高台削り出し	良好	ベトナム・見込目跡・高台内鉄錆
第 19 図	210	南半	黒褐色土	青花・碗	13.4		4.5	6.5	灰白・精良	灰白透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	明代・草花紋？

第３表　遺構外出土遺物観察表その３

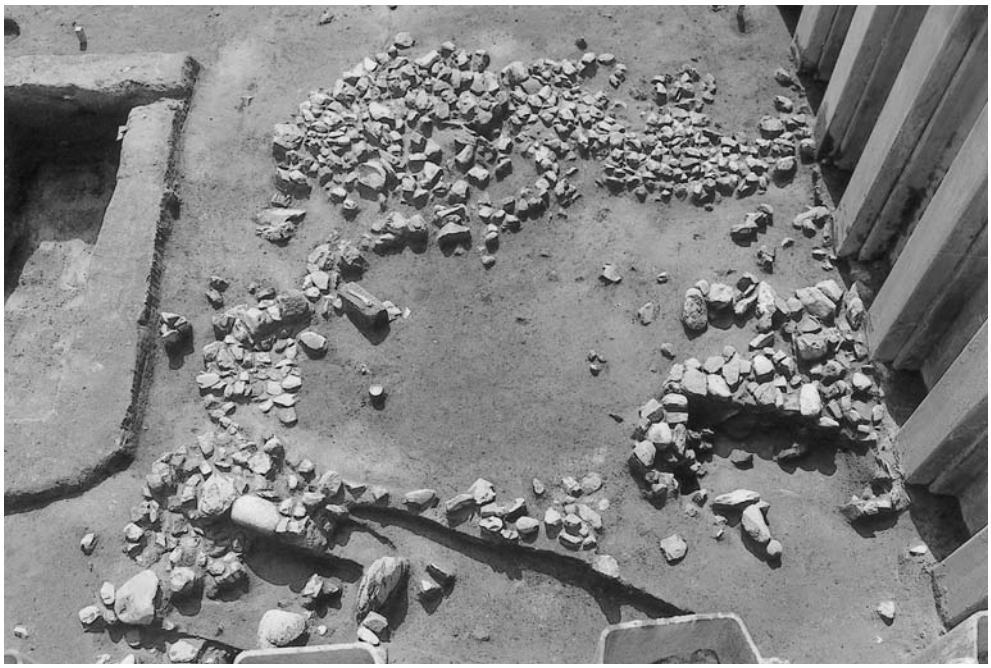
図面	番号	出土遺構	位置・層位	器種・器形	法量　cm　(　)は復元・残				胎土	色調・釉	調整	焼成	備考（陶磁分類は太宰府分類による）
					口径	胴径	底径	器高					
第 19 図	211	南半	黒褐色土	青磁・碗	(11.8)				灰白～橙（底付近）・黒微粒含む	淡青透明釉・細かな氷裂	ロクロ	良好	竜泉碗Ⅳ類？
第 19 図	212	南半	黒褐色土	陶器・天目碗	11.2		3.7	6.5	淡黄・黒及び白微粒わずかに含む	茶～黒褐不透明釉・細かな氷裂	ロクロ・高台削り出し	良好	瀬戸？
第 19 図	213	南半	黒褐色土	陶器・天目碗	11.2		3.7	6.5	淡黄・黒及び白微粒少量含む	茶～黒褐不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	瀬戸？
第 19 図	214	南半	黒褐色土	白磁・碗	16.4		7.2	6.5	灰白・黒微粒含み気泡有り	灰白不透明釉	ロクロ・高台削り出し	良好	碗Ⅳ -2 類
第 19 図	215	南半	黒褐色土	陶器・耳壺	11.0		(6.7)	20.4	褐～灰（下半）・白粒子含む・気泡多い	褐～暗灰黄不透明釉	ロクロ	良好	四耳或は双耳・耳壺Ⅶ類
第 19 図	216	南半	黒褐色土	瓦質土器・風炉？		24	14.6		精良・砂粒含む	外黒・内灰	ハケメ	良好	全体に煤付着
第 19 図	217	南半	黒褐色土	軒丸瓦					白・砂粒含む	灰		良好	瓦質
第 20 図	218	P-1	R-1	土師器・坏	11.2		6.8	2.8	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 20 図	219	P-100		土師器・坏	12.4		9.0	2.6	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 20 図	220	P-29		土師器・坏	12.3		8.0	2.4	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 20 図	221	P-37		土師器・坏	12.5		8.3	2.6	精良	橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 20 図	222	P-6		土師器・皿	7.4		4.8	1.6	精良	にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・内底ナデ	良好	
第 20 図	223		黒褐色土	土師器・坏	12.2		8.0	3.1	精良	浅黄橙	ロクロ・回転糸切	良好	
第 20 図	224		ラベル無し	土師器・坏	13.2		8.0	3.0		橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 20 図	225		ラベル無し	土師器・坏	13.3		8.4	3.1		橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 20 図	226		ラベル無し	土師器・皿	8.4		6.4	1.5		にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕	良好	
第 20 図	227		ラベル無し	土師器・皿	8.4		6.6	1.6		にぶい黄橙	ロクロ・回転糸切・板状圧痕・内底ナデ	良好	
第 21 図	228	北半	黒褐色土下層	石鍋	(24.6)						鑿による削り		滑石
第 21 図	229		黒褐色土中	石鍋	(22.6)		(14.6)	7.0			鑿による削り		滑石・外面工具痕明瞭に残る
第 21 図	230		Ⅰ面検出時	硯	残長 4.7	幅 7.6	高 1.7				鑿削り後研磨		頁岩或は粘板岩
第 21 図	231		Ⅰ面検出時	硯	残長 6.9	高 1.3				小豆色	鑿削り後研磨・陸部使用痕有り		輝緑凝灰岩
第 21 図	232	南半	Ⅱ面検出時	砥石	残長 11.6	幅 4.2	厚 4.0			淡黄			石英粗面岩（流文岩）？
第 21 図	233	北半	黒褐色土下層	砥石	残長 16.0	幅 4.6	厚 4.8			鈍い橙～褐			砂岩
第 21 図	234	北半	黒褐色土下層	鏝状石製品	長 9.2	幅 2.5	高 2.0				摺落し・把手部上面鑿削り（石鍋加工痕）		滑石・石鍋転用
第 21 図	235	北半	黒褐色土下層	錘	残長 6.1	幅 2.85	厚 1.8				摺落し		滑石・有溝石錘
第 21 図	236	北半	黒褐色土下層	錘	長 7.8	幅 3.4	厚 1.7				一面は鑿削り（石鍋の加工痕）他面は摺落し		滑石・有溝石錘・長方形・石鍋転用
第 21 図	237		黒褐色土下層	錘	長 6.7	幅 2.8	厚 1.45				摺落し		滑石・有溝石錘・石鍋転用
第 21 図	238	S-10	石群中	土製品・錘	長 6	幅 3.1	厚 2.6		精良・白粒子含む	明褐～暗褐	手捏・棒状工具押圧	良好	有溝石錘
第 21 図	239	北半	黒褐色土上層	用途不明石製品	長 10.7	幅 2.6	厚 2.6				摺落し・工具による円形施紋三カ所		滑石・石鍋転用
第 21 図	240		一面検出時	骨製品	長 3.3					淡黄			鹿角？
第 21 図	241	P-102		骨製品	長 11.1	幅 1.55	厚 1.4			淡黄			獣骨
第 21 図	242		黒褐色土下層	陶質人形	高 7.7	幅 3.1			精良	橙	型成形	良好	唐人二人を模す
第 21 図	243	P-32		土製品・錘	長 5.5	径 1.8	孔径 0.65		精良・赤粒子少量含む	淡黄	ナデ	良好	管状土錘
第 21 図	244	北半	黒褐色土下層	石錘	長 4.9	幅 1.4	厚 1.4			灰色	摺落し		砂岩？
第 21 図	245	南半	黒褐色土	鞴羽口	残長 10.5	幅 6.5	孔径 3.3 ～ 3.5		粗く大粒の砂粒含む	灰黄（浅黄橙～淡黄に焼ける）	ナデ	不良	先端部屑付着
第 21 図	246	S-12 周辺	R-3	鞴羽口	残長 9.8	幅 7.6	孔径 3.3		粗く大粒の砂粒含む	灰黄（浅黄橙～淡黄に焼ける）	ナデ	不良	先端部屑付着
第 21 図	247	S-34		鉄犀	径 11.7 ～ 12	厚 5.0							碗形犀

1．博多遺跡群第160次調査北半第３面 全景（南から）

2．博多遺跡群第160次調査北半砂丘面 全景（南から）

１．博多遺跡群第160次調査南半第2面 全景（東から）

２．博多遺跡群第160次調査南半最下層 全景（南から）

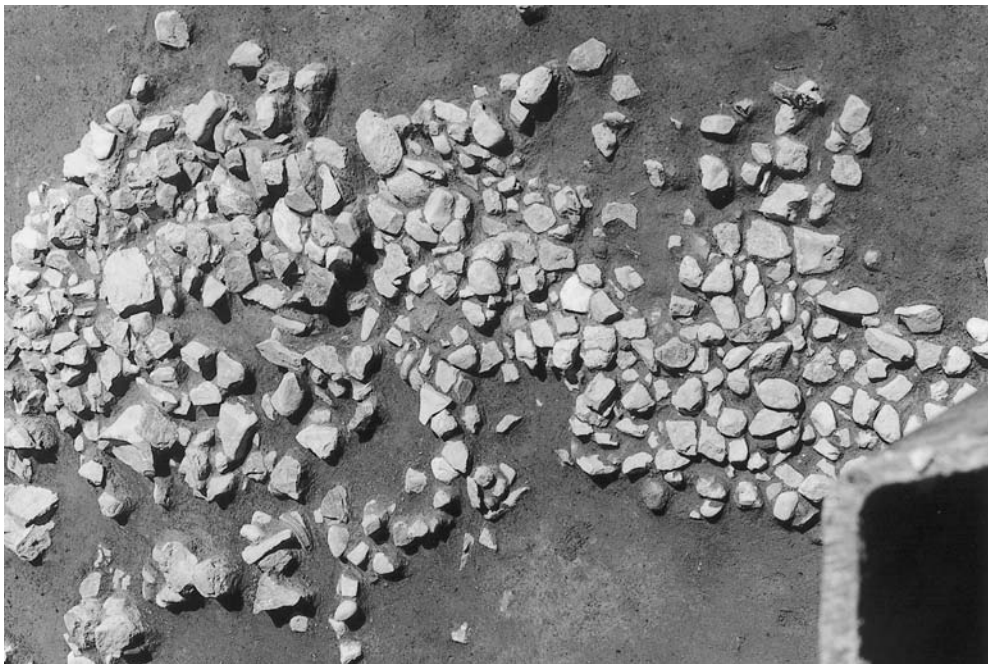


1．SX-3・4・5・6
（北から）

2．SX-3（北から）

3．SX-5（西から）

1．SX-3・7
（東から）



2．SX-6（西から）

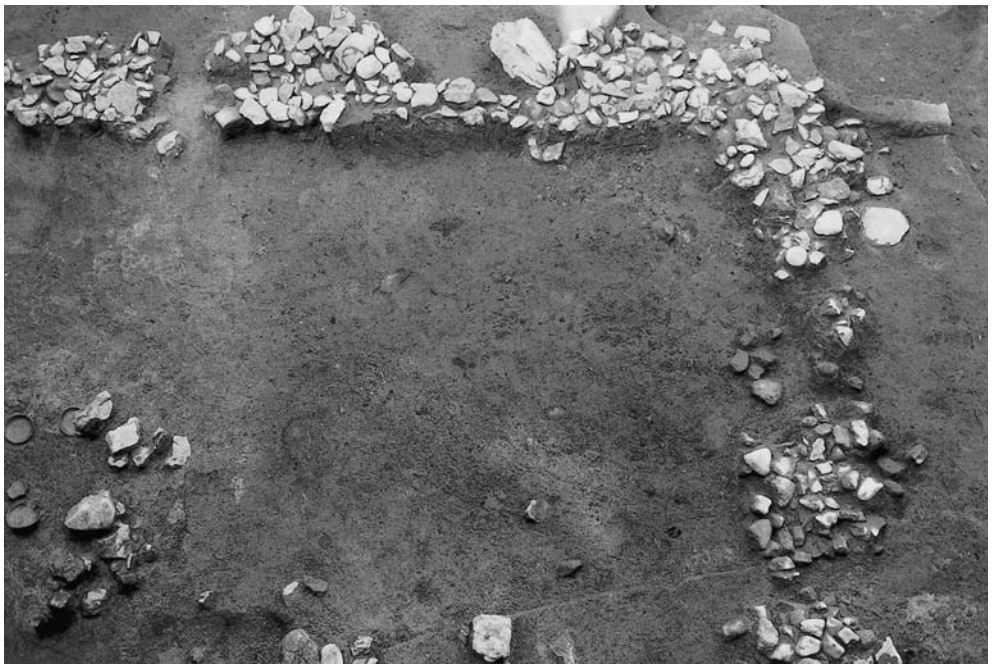
3．SX-10（南から）

1.SX-2(北から)

2．SK-12(北から)

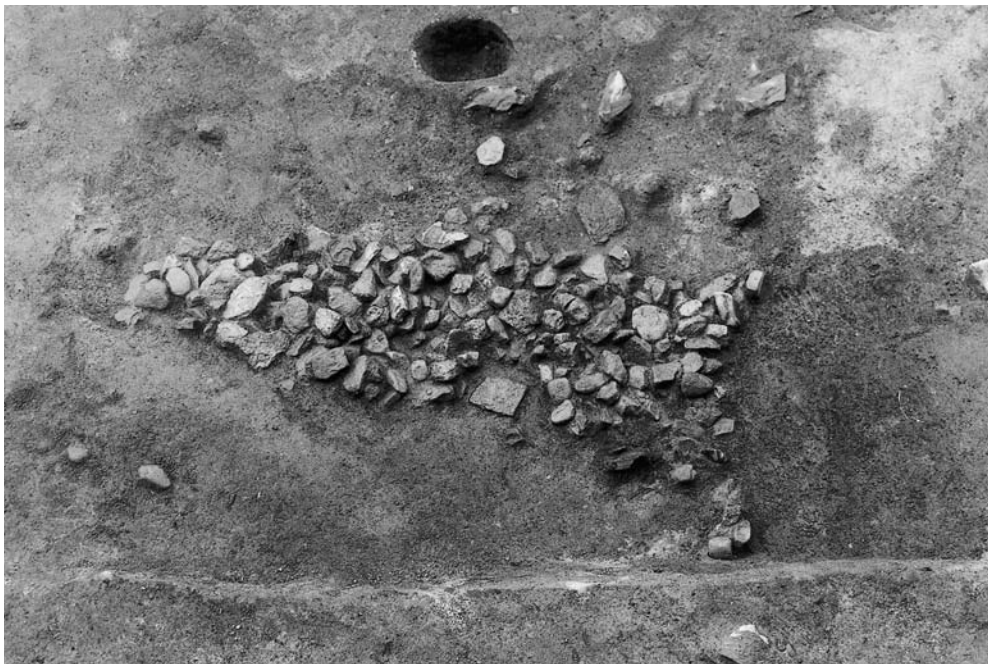
3．SK-13(北から)

1．SX-14(北から)

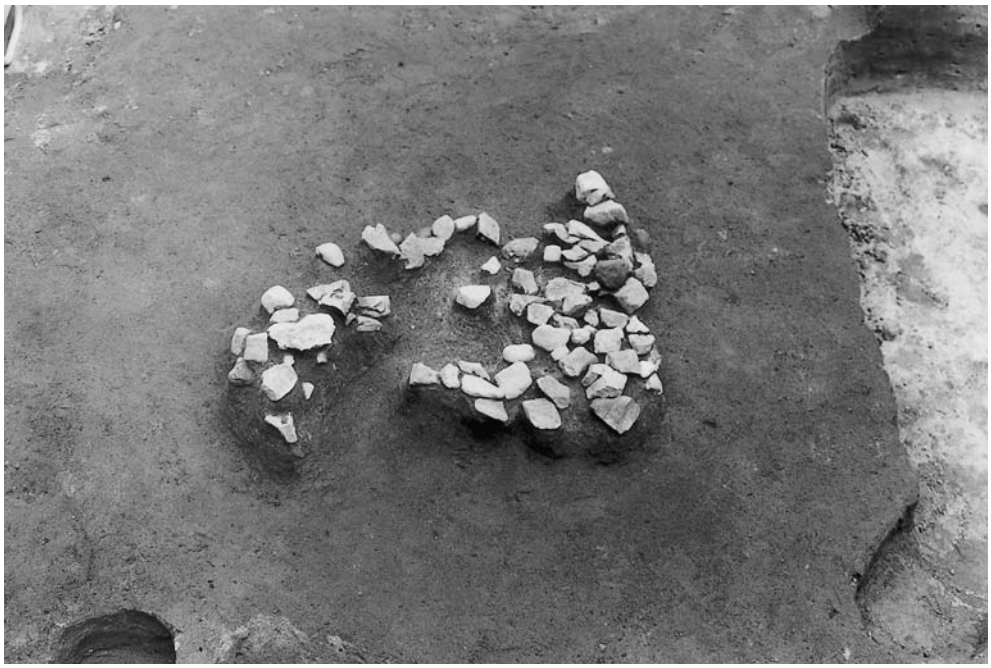


2．SX-14(西から)

3．SX-14下溝(西から)



1．SX-10(西から)



2．SX-16(北から)

3．SK-１9ベルト(南から)

1．SK-20(北から)

2．SK-23(東から)

3．SK-24(西から)

1．SE-25・26(西から)

2．SK-27(西から)

3．SK-30(南東から)

1．SX-32・33(北東から)

2．SX-34(南西から)

3．南半最下層石列
((西から)

報告書抄録

ふりがな	はかた
書名	博多120　ー博多遺跡群第160次調査報告ー
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	990
編著者名	赤坂亨
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神１-８-1
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
博多遺跡群 第160次	福岡県福岡市 博多区綱場町 144･145番	40130	0121	33° 35′ 49″	130° 24′ 24″	20060403 ～ 20060704	134.1	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・主な遺物	特記事項
博多遺跡群 第160次	集落	中～近世	集落ー中世～近世／溝2井戸2土坑13石敷遺構1石組遺構2性格不明遺構8石列1ピット多数ー土師器＋須恵器＋陶磁器	

要約

博多遺跡群息浜の調査。博多浜との入り江に面した部分である。検討の結果、本調査地点は南側に向かって傾斜する砂丘の縁であり、この傾斜面につくられた最も古い遺構面の時期は13世紀であることが分かった。南半の石列を境に遺構自体がなくなることから、この時期の息浜と博多浜の入り江の汀線が本調査地点南半付近を通ることが想定される。遺物で最も古いものは最下層から出土した12世紀代の瓦器であるが、本調査地点ではその時代の遺構は検出されなかった。その後、14世紀以降には傾斜が黒色系砂質土によって埋められ、水平な土地になった。近世以降は土地利用がさらに盛んに行われたようである。

博　多　１２０

ー博多遺跡群第160次調査報告ー

福岡市埋蔵文化財調査報告書第990集

2008年（平成20年）３月31日

発行　福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1-8-1

(092)711－4667

印刷　有限会社交信社印刷所

福岡市博多区須崎町12番７号

(092)271－2692